

## ・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（経営者）	・地上デジタル放送移行期限前の買換え需要が見込まれる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・東北新幹線の新青森駅開業に伴い、当地での誘致活動が活発化しており、春先、特にゴールデンウィーク期に観光関連のホテル、飲食店、お土産、レンタカーなどへの波及効果が見込まれる。
		商店街（代表者）	・3月に札幌駅前通の地下歩行空間が開通されるため、人の流れに若干の変化が生じ、当店周辺への人の流れが良くなることが期待される。
		商店街（代表者）	・最近の傾向から、ゴールデンウィーク後は周辺町村から中心市街地を訪れる来街者が増加するほか、道央圏からも、特に中国人や韓国人などの外国人を始めとした観光客の増加が見込まれるため、商店街全体としての販売量の増加が期待できる。
		百貨店（売場主任）	・長期予報によれば、3月以降はとて暖かくなるということで、前年が寒かったことの反動もあり、春物の動きが良くなることが期待できる。特に、羽織物、ジャケット・ニット、パンツ・ブラウス関連の動きが良くなるが見込まれる。
		スーパー（店長）	・前年は、春先にかけて気温が非常に低かったことから、春に動く商品が不調だったが、今年は気温が高めで推移していることから、今後に向けて景気が段々と良くなることが期待される。
		スーパー（役員）	・コーヒー・砂糖・食用油等の値上げ報道により、商品の動きが良くなっている。また、以前より高い価格でも商品が売れるようになってきており、一時の安さ勝負の状況から変わりつつある。
		乗用車販売店（営業担当）	・新商品の投入により、販売量が増加することが期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・1月初めから2月半ばまで続いた来客数及び販売額の低調が、2月中旬からわずかに上向きつつあることから、今後についてはやや良くなる。
		タクシー運転手	・現在は客の乗込件数や注文件数は変わらないが、今後については、東北新幹線の効果などで観光客が増えることが見込まれるため、やや良くなる。
変わらない	一般小売店〔酒〕（経営者）	・毎月のことだが一進一退の状況を繰り返しているため、2～3か月後も今までの基調とほとんど変化がないとみられる。	
	百貨店（売場主任）	・食品の減少幅は小さいものの、衣料品は婦人服の前年比95%を始めとして前年をクリアできない状況にあることから、今後も変わらない。	
	百貨店（販売促進担当）	・客単価の低下を補うだけの来客数の増加や買上率の上昇を見込めないため、今後も変わらない。	
	スーパー（店長）	・高速道路の無料化社会実験の影響を受けて、来客数の増加がみられるようになっており、6月まではその恩恵が続く。	
	スーパー（企画担当）	・客の購買行動として、調味料やカップ麺などの長期保存が可能な食品のセール時のまとめ買い傾向が、今まで以上に強まっている。食料品の値上げが見込まれるなかで、今後も価格訴求が強まることになる。	
	コンビニ（エリア担当）	・客単価の動きなどに大きな変化が感じられない。格別に支出を抑制したり、増加させたりしていない状態が続いているため、今後も変わらない。	
	コンビニ（エリア担当）	・たばこの値上げ効果が継続するため、売上の流れも大きくは変わらない。ただし、たばこ分を除くと前年を下回っており、実態は決して良くない。競合店出店の動きもあり、楽観できない状況にある。	
	コンビニ（エリア担当）	・来客数の動きをみると、底は打っている感じは受けるが、アルコールや雑誌の売上が大きく減少するなど、消費抑制の傾向が強いため、今後も変わらない。	
	衣料品専門店（店長）	・景気が上向きになるような兆しが全くみられない。	
	家電量販店（店員）	・3月にもう一度、エコポイントの駆け込み需要が発生することが期待できる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（スタッフ）	・4月以降の明るい話題が少なく、先が見えない。特に地方の飲食店は、食料品の原材料の値上げで大きな影響を受けることになる。
		旅行代理店（従業員）	・海外情勢の不安や国内の政治不信に加えて、統一地方選挙の影響が懸念される。
		タクシー運転手	・電話注文や来客数の増える要素が思い当たらない。
		通信会社（企画担当）	・春商戦を迎えて、販売量の増加が期待できるが、一方で、競合他社との割引合戦での体力消耗が懸念される。
		観光名所（役員）	・国内景気も盛り上がりせず、海外も円高が続いている状況であるため、先行きについては前年並みの入込客の確保も厳しいことが見込まれる。
		美容室（経営者）	・今後、明るい話題や何か大きな刺激剤が出てこない限りは現状のまま推移する。
		設計事務所（所長）	・客の慎重姿勢が崩れるような要因が見当たらない。
		住宅販売会社（経営者）	・国内の政局や海外の状況が落ち着くまで、まだしばらく時間がかかるため、今後も客のマインドは変わらないまま推移する。
		住宅販売会社（従業員）	・分譲マンションの資料請求の件数が多く、今後もモデルルームへの来場数が極端に減る可能性は小さい。したがって、数か月先までであれば、ある程度の売上を確保できる。しかしながら、販売価格の下落は続いており、分譲マンション事業全体では依然として苦しい状況である。
		やや悪くなる	
百貨店（販売促進担当）	・原油価格の高騰によるガソリンや灯油価格の上昇は、冬に暖房費がかさむことや車社会である北海道にとって直接家計に響く大きな問題となる。今後、さらに価格が上昇すれば、家計費の圧迫に伴い、その他の消費への影響は避けられない。		
スーパー（店長）	・政権政党の混乱、またリビア等の中東情勢の影響を受けての原油高、それに伴う各国のインフレ懸念など、このような状況のなかで明るい見通しが立たない。		
スーパー（役員）	・顧客の買物動向は、まとめ買いから都度必要な物を買うという動向に変化している。平均年収も下がる一方であり、今後良くなる材料は今のところない。		
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・中東情勢の不安定化に伴う原油価格の高騰により、石油製品の高値安定が見込まれるため、今後の大幅な需要減少につながる。		
高級レストラン（スタッフ）	・中東情勢の影響でガソリンや灯油が値上がり傾向にあるため、外食の機会を控えることが見込まれる。		
観光型ホテル（スタッフ）	・需要を喚起するようなイベント、大会がない。また、経費削減トレンドによるビジネス客の利用の減少が見込まれるほか、統一地方選挙の影響で観光客も停滞傾向となることが見込まれる。		
旅行代理店（従業員）	・円相場の動向次第で海外旅行需要に影響が出ることになる。業務性旅行についても経費節減の折、伸び悩み状態にある。宿泊については、インターネット販売の勢いが衰えない。これらのことから、今後についてはやや悪くなる。		
旅行代理店（従業員）	・先行受注状況を見ると、3月は国内旅行が前年比107.0%、海外旅行が前年比108.1%となっているが、4月は国内旅行が前年比98.9%、海外旅行が前年比83.2%と落ち込んでいるため、今後についてはやや悪くなる。		
タクシー運転手	・今年は統一地方選挙が4月に行われるが、今までの経験から、選挙の年は景気が悪くなる状況がみられるため、今後についてはやや悪くなる。		
悪くなる		家電量販店（地区統括部長）	・今の状況下では、3月に家電エコポイント制度が終了するため、急激な売上の落ち込みが懸念される。
		タクシー運転手	・例年雪のある3月までは、タクシーの利用はまずまずであるが、4月以降は利用客が大きく減少する。さらに、今年は統一地方選挙があるため、4月以降の利用客の減少と売上の減少が懸念される。
企業動向関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	建設業（経営者）	・後は補正予算やゼロ国債で受注した工事が動き始める。また、5月には新年度予算の発注も始まるため、国会の混乱が気になるものの、マインド面は好転する。建築についても、融雪後の工事が着工されるため、人、物、金の動きが開始される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	建設業（従業員）	・春先に着工予定の医療関連施設や高齢者施設の新築工事の見積の引き合いが多く、工事業者によっては対応に手が回らないところが出ている。
		食料品製造業（役員）	・長期的にみて、現在以上に売上が伸びるような要因がまだ見えてきていない。
		輸送業（支店長）	・今は冬場ということもあり、一番悪い時期にある。3月になれば多少荷動きもみられるようになるが、極端に大きな変化はないと見込まれる。
		金融業（企画担当）	・補正予算による公共工事の増加が見込まれる。観光関連は外国人観光客が下支えする。しかし、雇用・所得環境に改善がみられず、ガソリンなど石油製品価格の上昇懸念もあることから、個人消費は弱含みで推移する。総じて景気は横ばいで推移する。
		司法書士	・今後において明るい材料が見当たらないため、現状のまま推移していく。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・国会での予算成立の見通しが不鮮明であることに加えて、統一地方選挙を控えることから、企業の設備投資意欲は低いとみられる。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・ようやく設備投資の案件が聞こえるようになった。決定までには時間と手間がかかるが、4月からの新年度を迎えるに当たって、今後の動きが期待できる。
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（従業員）	・良くなる材料が見当たらない。
		金属製品製造業（経営者）	・中東諸国の情勢の不安定化により、石油価格が上昇することなどが懸念される。
		輸送業（営業担当）	・4月以降、船運賃の燃料費調整係数が1ランクアップするが、得意先への価格転嫁が難しい。また、本州向け農産物の出荷が減少しており、今年の収穫が行われる秋まではこの状況が続く。
通信業（営業担当）		・3か月前と比較すると、現状の業績等の数値比較からやや回復傾向にあるが、エコポイント制度の期限終了や先々の増税感など、現在の状況が続くとは思えない要因が多いため、2～3か月後の景況感は今よりはやや悪くなる。	
司法書士		・統一地方選挙などがあり、選挙結果で国政も大きく動くため、景気回復の諸政策を実行することができるかどうかの瀬戸際となる。極端な場合は、衆議院の解散問題も浮上しかねない状況にあるため、これから先の景気が回復するとは考えにくい。	
悪くなる	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・新年度当初の受注が激減しそうな状況にある。	
雇用関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・札幌中心部の求人件数に勢いが始めており、この地域を中心とした先行的指標となる飲食業や小売業などのサービス業の今後の動向に明るさが見えてきた。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・年度替わりで求人数は増えるが、離職者も増えるため、全体としては今後も変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人広告受理件数に若干の伸びがみられるが、業種や業界によりばらつきがあり、まだら模様であるため、今後も変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・特別な不安要素もないため、ここ最近の上向き傾向が維持される。
		職業安定所（職員）	・景気の回復が緩やかながらも感じられるが、中東情勢の緊迫化による原油価格の上昇など、景気の下振れの懸念材料が出ている。
		職業安定所（職員）	・今月の新規求人数の動きをみても、管内求人の変動はみられないことから、今後も変わらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・雇用環境に特化することではないが、北海道において景気が上向いていると感じるような企業の動きがみられず、そうした情報も伝わってこないまま新たな年度を迎えることが懸念される。今後は3月末日まで未内定の卒業生を対象に個別対応に傾注することになるが、肝心の求人票の受理数が限られ、指導に苦慮していることから、当面は現状のまま推移する。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・新卒者の未就職者が失業市場に大量に流れ込むことになるため、ただでさえ有効求人倍率が低いなかで、就業への競争が激しくなり、中高年及び女性の求職者にとって厳しい時期を迎えることになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	—	—

## 2. 東北（地域別調査機関：（財）東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	○	○	
	やや良くなる	商店街（代表者）	・4月以降、新幹線延伸開業を契機としたデスティネーションキャンペーンが始まり、商店街等の動きもイベント等の開催で活発になることから、観光客を始め地域外からの客は確実に増加する。これらの客に対する販売力をいかにつけていくかが鍵であり、そのための準備を進めていく。	
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・異動時期になるので、お酒を飲む機会は増える。新しい酒もどんどん出てきているので、販売数の増加が予想される。	
		百貨店（経営者）	・新幹線延伸開業に伴う流入人口の増加により、3月以降、何らかのプラス効果が期待できる。	
		スーパー（総務担当）	・3月以降は、食料品の価格値上げの動きがさらに広がりを見せてと予想している。売上は現状の傾向で推移すると見込んでいるが、新興国の人件費が上昇するとの話があり、また、中東の民主化運動拡大で原油価格の高騰も続くと思われ、価格に反映できないと収益はかなり厳しくなる。	
		コンビニ（経営者）	・売上、来客数、客単価、買上点数共に増加傾向が続く。特に、客単価と買上点数の増加が明るい材料である。	
		衣料品専門店（店長）	・弊社の業績も先月で12か月連続前年を上回る実績を残し、今月になり客足も底を打ち少しずつ良くなっている。特にスーツを品定めする客の購買姿勢が以前よりシビアではなくなっており、ファッションやスタイルを気にしながら楽しんでいるようで、客の様子からは儉約に嫌気がさし、消費マインドが上向きつつあることがうかがえる。	
		衣料品専門店（店長）	・先買いや買上点数の増加に加え、客単価も上昇の兆しがみられる。	
		衣料品専門店（店長）	・消費者は節約に飽きてきており、少しずつ購買意欲が出てくる。	
		乗用車販売店（経営者）	・年度末は年間で最大の需要期であり、販売開始が予定されている新型車の前評判も良く、販売量は増加の見込みである。	
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金終了から5か月余り経ち、反動の影響は縮小していく。	
		一般レストラン（経営者）	・景気の低迷は続くが、寒さが和らいでくることで予約の状況が良くなることを期待している。	
		観光型ホテル（経営者）	・現状、入込数は前年比5%増となっている。予約状況は多少前倒しになっている。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・プロ野球球団の宿泊のほか、大型イベントが予定されており、2月に比べてやや良くなると予想されるが、景気回復とまではいえない。	
		旅行代理店（従業員）	・新幹線の延伸開業により、東北を訪れる人が増えることに加え、各種会議や大会が多く開催される。また、宗教関係のイベントもあるので、良くなることが期待できる。	
		通信会社（営業担当）	・個人需要を中心にスマートフォンの売行きは堅調に推移すると期待している。	
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・希望的予測だが、需要期のまったただ中であり、やや良くなる。	
		変わらない	商店街（代表者）	・相変わらず予約状況が最低ラインで推移しており、この先も変わらない見込みである。
		商店街（代表者）	・12～1月の豪雪、寒波から一転、2月下旬になって急に暖かい気候となったことから、衣料品関連は春物を早目に仕掛けようとしているが、全体的に消費は鈍く期待はできない。	
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・現在の状況は変わらない。	
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・3月は歓送迎会のシーズンだが、4月に統一地方選挙があり、5月のゴールデンウィークと続くので、現在の悪い状態は変わらないことが予想される。		
	一般小売店〔寝具〕（経営者）	・客のマインドは2～3か月では変わらない。世の中の景気が良くなりお金が回るようにならないければ商品が動かないため、現在の状況は続く。		
	百貨店（売場主任）	・暖かくなるにつれ、カジュアルな商品の動きに期待したいものの、謙虚な買い方は変わらず、衝動買いは見受けられないと予想される。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画担当）	・一部企業で回復基調になっており、今年の春闘は間違いなく盛り上がる事が予想される。しかし、政局は相変わらず混沌を続けており、中東情勢も懸念されるため、景気回復にはしばらく時間がかかると予想される。
		百貨店（営業担当）	・身の回り品については、消費マインドが確実に上向いている。
		百貨店（売場担当）	・現在は、春物のオケージョンニーズや、ファッションニーズが高まる時期にもかかわらず客単価は下がっている状況である。来月、再来月はいかに客の関心事を提案し、動員をかけて売上に結び付けるかが重要となる。
		百貨店（経営者）	・株価が徐々に上昇していることは良いことだが、世界的な情勢不安、原油高に加え、国内の政局不安は続いており、景気回復には相当な時間を要する。
		百貨店（販促担当）	・ヒット商品やヒットアイテムがないことに加え、高単価商品やナショナルブランド等の売上が伸びていないため、今後も変わらない。
		百貨店（経営者）	・先行き不安で購買意欲が無いことに加え、相変わらず節約志向が強い。さらに、特定ユーザー向けや単発のヒットだけで、購買頻度の高い商品群にヒット商品が無いため、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（経営者）	・変化の兆しが見られない。
		スーパー（店長）	・「はれ」の日の需要は最低限期待できるが節約志向は変わらず、必要な物を必要な分だけ購入する傾向はますます顕著になる。
		スーパー（店長）	・上向く要因はこれとってない。
		スーパー（店長）	・商圈人口が増えないなか、競合店が出店している。スーパーマーケットは、異業種を含めた競合他社との価格政策による力関係で商売をしており、国の政策で景気が回復しない限り、身の回り品の動きに変化はない。
		スーパー（販促担当）	・新学期や新生活、ゴールデンウィークなど消費が拡大する時期に入るが、原油価格高騰に伴うガソリンや灯油の価格値上がり、家計を圧迫することが予想される。
		コンビニ（経営者）	・悪い状態なりに落ち着いてきたという面があるので、この先半年くらいは現在の状態が続く。
		コンビニ（経営者）	・高校生及び大学生の就職内定率が厳しいなか、現在仕事を求めている人たちも厳しく、所得が増えない状況にあり、消費者の購買力の向上は期待できない。
		コンビニ（エリア担当）	・依然として低単価の商品が好まれているものの、来客数が増えてきているので、短期間で景気が悪化することもない。
		コンビニ（エリア担当）	・季節指数をもとにした予測で、冬季の売上実績が月間で上回ることを想定している。
		コンビニ（エリア担当）	・前年のトレンドから脱却できるような明るい要素が見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・売れているものは相変わらず低価格商品で、客の財布のひもが固い状況はしばらく続く。
		衣料品専門店（店長）	・特定のマーケットは回復してきているが、一般ビジネスマーケットの来客数は回復しておらず、変わらない。
		家電量販店（店長）	・海外情勢及び国内政治の不安から、景気回復の好材料がない。
		家電量販店（店長）	・来客数の微増に対して単価の下落幅が大きいことや、消費が大きく動く要素が見当たらないため、今後も現在の状況は続く。
		乗用車販売店（経営者）	・前年のような政策効果が期待できないなか、新年度に入って新車販売が現状から上向くとは考えにくい。新型車の投入効果も一時的で、前年に比べて厳しい状況が予想される。
		住関連専門店（経営者）	・先行きは明るい材料に乏しく、現状から脱しきれない。春に向けて消費者の財布のひもが少しでも緩くなることを期待したいが、転勤時の買換えは最小限に止める傾向にあり、消費が大きく伸びるといったことはない。
		住関連専門店（経営者）	・仏壇は、現在の人たちにとってあまり興味がわかない購買商品であることに加え、冠婚葬祭に対する気持ちが希薄になっているため、売上は向上しない。
		その他専門店〔呉服〕（経営者）	・問屋の話では、今後いろいろな物が値上がりするので、消費はますます冷え込む。
		その他専門店〔靴〕（経営者）	・入学、入社シーズンとなっても、必要なもの以外の商品を購入する雰囲気にはならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・中東情勢は3月以降も安定しない公算が強く、仕入れ価格の上昇傾向は続く見通しであり、末端価格への転嫁が課題である。転嫁の状況が厳しければ現状が改善されないまま推移することが予想され、長期化すれば経営継続問題に発展し、急激な小売業界の淘汰が始まる恐れがある。
		一般レストラン（経営者）	・市場、仕入れ業者及び客の動きから、良くなる要素が見当たらない。これ以上、悪くはならないが、厳しい状況はしばらく続く。
		その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・市内においては集客が減り続けており、郊外型のショッピングセンターの方に客が集中している。新幹線が延伸開業したが、駅の周辺には建物などが何もないので、悪い状況はまだ続く。
		観光型ホテル（スタッフ）	・客の財布のひもは依然として固く、例年行っているプランでも、同じ内容にもかかわらず客が減っているという状態である。新幹線延伸開業という明るい材料もあるが、4月の統一地方選挙の影響による来客数の減少も予想される。しばらくは現在の状況が続く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・3か月先までの予約状況を見ても、極端な増減は見られず、現在と同水準となっている。
		旅行代理店（店長）	・先行受注では、3月の国内旅行が前年同期比111%と順調な反面、海外旅行は同71%となっている。4月は国内旅行の動きが鈍く、海外旅行は早期申込が増えている。
		通信会社（営業担当）	・新幹線延伸開業の効果が期待したいが、景気回復の要因が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・景気が回復する材料が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・先行き不透明感が続いており、良くなる材料も見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・現時点での景気は比較的上向きであるが、この2～3か月で更に良くなることはない。
		観光名所（職員）	・大口の予約もなく、3か月前や今月と変わらず、10数%のマイナスが続くことが予想される。
		設計事務所（経営者）	・新年度に入り、気候も暖かくなれば、動きが出てくるのではと期待しているが、先行き不透明な状況は続く。
		住宅販売会社（経営者）	・現場が集中するため、受注予定の工期が延びたり、現場の経費ロスは避けられない。
	やや悪くなる	一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・円高局面が再び訪れ、春闘の賃上げ交渉も盛り上がり欠けるなかで、消費の手控えが懸念される。
		スーパー（経営者）	・食料品の原材料が値上がりしている関係から、値上げをする商品が増えてくる。政治が混とんとしており、子ども手当がどうなるか不透明な部分があるので、景気が良くなるということはない。
		スーパー（経営者）	・原材料価格高騰の影響が懸念される。
		スーパー（経営者）	・原油高等を背景とした穀物相場や原材料価格の高騰により、食料品の値上げは確実に、コスト上昇は避けられない。また、当地域では倒産企業が増えつつある。
		スーパー（店長）	・今後、コーヒーや小麦粉、油等の原材料価格の上昇が予想され、一時的な特需はあっても、その後は客の買上点数が減るなど影響が出てくる。
		コンビニ（店長）	・中東情勢の動きから原油価格の高騰が確実視されているため、今後、ガソリンの値上げや物価の上昇による家計の圧迫が懸念される。消費者の所得が上がらない以上、消費は低迷すると予想される。
		衣料品専門店（総務担当）	・先行きの不安が経済活性化につながらない。不景気感がぬぐえない状態が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金終了の反動が依然として尾を引いており、ガソリン価格の上昇も長期化しそうな動きである。また、先行き不透明感から春闘も良い話は聞かれない。そのため、新車販売は前年比15%前後の減少で推移する。
		乗用車販売店（経営者）	・新車販売は需要期に向かっているが、低価格車と軽自動車のみ集中しているため、300万円等の高価格車は以前のように売れず、更に厳しい状況になることが予想される。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・次年度の受注見込や予想が立たない状況となっており、期待はできない。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・世界的に不安定な政治情勢のなかで、穀物や原油の価格高騰が報道され、消費が更に冷え込むことが懸念される。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・豪雪被害の影響が出るのが予想される。政治経済情勢等の景況も希望がもてない状況では、一層厳しくなると判断せざるを得ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・世界情勢が不安定ななかで、原油価格の高騰が続けば国民生活にも影響を及ぼし、買い控えに拍車がかかり、景気は更に悪化することが懸念される。
		高級レストラン（支配人）	・国内政局の混迷化、北アフリカ情勢の不安定化による原油高、食料品の原材料の値上げなど、明るい要素が全くみられず、不安要素が強くなっていく。
		観光型旅館（経営者）	・農業関係者は、T P P問題等の不安要素を抱えており、レジャーに気持ちが向かない。また、ガソリン価格の上昇も不安要素としてある。さらに、高速道路料金を平日上限2,000円とする施策に期待したいものの、ここ数年、客は連休に集中して平日の旅行が減る傾向が強まっており、ゴールデンウィーク前後は混雑で客の動きは悪くなる。
		観光型旅館（スタッフ）	・予約済みの団体はなく募集ツアー頼みだが、催行率は不確かであり、集客予想が読み切れない。
		都市型ホテル（経営者）	・3月は送別会のシーズンで既にかかなりの予約が入っているが、客単価は下がる傾向にある。仕事を受けられる数はある程度決まっているので、単価で判断すると、悪くなる見通しである。宿泊、料飲施設においても同様である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・エリア内の競合店のリニューアル工事が3月で終了するので、当ホテルを利用していた客もそちらに流れることが予想され、ここ2、3か月は厳しくなる。
		タクシー運転手	・客の減少が続くことが予想される。
		タクシー運転手	・客との会話のなかでも、政局や雇用、年金の不安など、暗い話ばかりで明るい話が全く聞かれず、先行きに希望が持てない。
		通信会社（営業担当）	・不安定な中東情勢により、原油価格高騰が再発する懸念がある。工場の本格稼働で自動車関係への期待は大きいですが、全体的に好ムードになるまでには至らない。
		テーマパーク（職員）	・コーヒー等、投機筋に起因する世界的な原材料の値上がり傾向も懸念され、価格に転嫁せざるを得ない状況も予想される。
		遊園地（経営者）	・4月下旬に幼児向け大型レジャー施設がオープン予定であり、その影響が懸念される。
	悪くなる	自動車備品販売店（経営者）	・エコカー購入補助金による需要の先食いと代替促進により、市場から値頃感のある中古車が減ったため、地方で低所得者を相手にしている業界では活気が全くみられない。補修を主体とする自動車整備業は今後も厳しい状況が続く、淘汰が進む懸念がある。また、高校生の就職率低下も市場低迷に影響する。
企業動向関連	良くなる やや良くなる	—	—
		電気機械器具製造業（企画担当）	・現状が景気の底で、これ以上悪くはならず、少しずつ回復していくと予想される。
		通信業（営業担当）	・決算が予想以上に良くなる見通しである。
		金融業（広報担当）	・新幹線延伸開業の効果に加え、J R各社が中心となって4月から実施されるデスティネーションキャンペーンの効果も期待できる。
		広告業協会（役員）	・前年末ごろから商業施設の新規開業や移転広告などが少なくなり、業界にはまた厳しさが戻ってきている。商店街からは、最近3、4月に多い転勤や就職、新入学などによる売上が上がらないという嘆きが聞こえる。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・売れる商品の幅が広がっていることで、販売量も増しており、今後も良くなることが予想される。
	変わらない	その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・休日出勤して生産に対応している取引先も見られ、現場サイドからも人手が足りないとの声が出ている。
		食料品製造業（経営者）	・アメリカのB S E問題により牛肉は20か月齢以下のみの輸入となっている。その状況では、相場は高く、販売価格も高くせざるを得ないため、良くなる見通しは立たない。
		食料品製造業（総務担当）	・当面、受注や収益が改善するような環境の変化は期待できない。
		繊維工業（経営者）	・市場としては回復の方向に向かっていると思われるが、国内政治の不安に加え、北アフリカ及び中東の民主化運動による政治混乱から、原油価格の高騰等、景気に与える今後の影響が心配される。
木材木製品製造業（経営者）		・現在の状況が2～3か月続く。	
		建設業（従業員）	・コンサルタント及び設計事務所に持ち込まれる新規物件が増加していない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（企画担当）	・民間工事の出件数及び出件規模が減少している。また、官庁工事についても現在の不安定な政局から明るい材料は見出せず、現在の状況が良くなることはしばらく期待できない。
		輸送業（従業員）	・現状の需要動向で推移していくと予想される。
		金融業（営業担当）	・特に大きく変化する要因はない。
		広告代理店（経営者）	・得意先を取り巻く環境から、広告費の拡大には至っておらず、苦しい状況は続く。
		司法書士	・破産等の債務整理事案は減少しているものの、不動産の取引が活発化する状況にはなく、今後も変わらない。
		公認会計士	・サービス業や家電関係を除く小売業は相変わらず業績の回復が厳しい。消費者の購買意欲が高まらない限り、更に悪化する可能性がある。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・消費者は、嗜好品である酒類への出費を予想以上に抑えており、利益商材である地酒でも低価格化が進んでいることから、出荷量微減、利益大幅減の傾向は続く。
		金属工業協同組合（職員）	・有機EL製造関連の動きなど、一部に受注量及び単価の適正価格による引き合いがある反面、成形製造は大幅な受注減が続く状況は変わらない。
やや悪くなる		農林水産業（従業者）	・大雪による果樹の枝折れがひどく、栽培環境が悪化する。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・同業者の話聞いても、受注量が前年同月比で5～10%低下しており、今後、リストラを考えているところが多い。
		輸送業（経営者）	・工場荷主の定期修理や燃料費の高騰傾向に加え、賃上げ交渉も始まり、先行き不透明感や不安要素が高まる。
		通信業（営業担当）	・取引先も含めて、好転するような要素が見当たらない状況である。
		広告代理店（経営者）	・各企業の新年度予算は、今年度よりも削減されるとの情報多数聞かれており、受注量は微減で推移する。観光関連では、2012年度に隣県で実施されるデスティネーションキャンペーンに向けた準備を進める。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折込チラシ及び新聞購読の動向と、読者や業者の声を聞く限り、希望的な要素は見られない。12～2月までの傾向を見ても、今後はやや悪くなることが予想される。
悪くなる		食料品製造業（総務担当）	・市況は現状維持で推移する。ただし、原油価格の上昇による油製品の高騰や小麦等の原材料価格の高騰で、経営に悪影響が出てくることが予想される。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・自動車部品については、為替の影響に加え、原油価格高騰に伴う原材料価格の上昇により、原価に悪影響が出てくる。
雇用 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・飲食店やサービス業の新店オープンの情報が入ってきている。
		人材派遣会社（社員）	・2012年4月入社の新入社員の採用予定数を前年よりも増やす企業が出てきている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・1月には自動車工場の初出荷があり、4月からは半導体関連工場の本格稼働も控えている。関連企業を含め、春先からの新しい動きに期待している。
		職業安定所（職員）	・新規求人への事業主の意欲が増しているように見えることに加え、大規模な企業整理等が見られない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は前年比3か月連続で3割増強し、新規求職者数も2か月連続で減少しているため、わずかながら明るい兆しがみえる。ただし、国の公共事業予算が削減されたために建設業が疲弊し体力が低下していることに加え、新年度予算の成立に目途が立たず、当初予算の執行が遅れることにより、倒産企業が出るとの話も囁かれているため、業種間で景気の明るさに格差が生じる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・支店経済の当地域において、支店経営は依然として厳しいとの声が多い。派遣の終了に伴う移籍もパートの場合が多く、引き抜きにしても紹介料を払えない企業が多い。本店に対する支店の利益の見せ方が難しさを増しており、支店での努力にも限界がある。
		人材派遣会社（社員）	・景気回復の好材料が見つからない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・民間企業の大型設備投資計画も聞かれず、行政主導の誘致企業も数少ない状況下であり、雇用が生まれる環境にないため、現在の状況は続く。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・原油高や政局不安など、マインドを低下させる懸念材料が多いため、現在の状況は続く。
職業安定所（職員）		・新規求人数は前年同月比で3か月連続、月間有効求人数は2か月連続での減少となっており、有効求人倍率はわずかずつの上昇傾向に一服感が見られ、減少傾向にある。	
職業安定所（職員）		・休業などの雇用調整は減少するが、新規学卒者向けの求人が前年度よりも少ない状況は変わらない。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・求人数は前年比で増加傾向にあるものの小口の求人が多く、求職者の減少も小幅であるため、現在の状況は変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規卒者の内定率の低下や正社員の求人の伸び悩みに加え、休業している企業がなかなか減少していないことから、厳しい状況は続く。
		職業安定所（職員）	・新規求人はしばらく増減なく同水準で推移する見通しである。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・最悪期は脱しているものの、厚生労働省の専門26業務派遣適正化プランにもとづく制約職種適用契約が今年度末に満了を迎えるため、やや厳しい状況になる。
		アウトソーシング企業（社員）	・国などの機関からの仕事量の減少は続く。
		新聞社 [求人広告]（担当者）	・北アフリカや中東などで政治状況が緊迫化しており、原油供給等で経済へのマイナス要因が増えている。国内政治も予算がらみで混んとしており、先行きの景気に暗い影を落としていることから、今後2～3か月先の景気は更に不透明となり、やや悪くなると予想される。
悪くなる	○	○	

### 3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	○	○
	やや良くなる	一般小売店 [家電]（経営者）	・テレビの地上デジタル化の期限が迫ってくるので、販売の盛り上がり期待ができる。また、エアコン等の動きも良くなる。
		コンビニ（経営者）	・デザートに加え、ファーストフードの売行きも好調である。また、新しいタイプのチルド弁当も売行きが良いので定着しつつある。
		コンビニ（経営者）	・たばこを買う客が戻ってきたことで、来客数が増えてきており、値上げ分がそのまま売上を押し上げている。また、一緒に缶コーヒーを買う客が多いため、缶コーヒーが良く売れており、過去最高の販売本数を記録している。
		衣料品専門店（統括）	・来月は年度末になるが、見積と問い合わせが来るようになったので、買物につながる。
		衣料品専門店（販売担当）	・何となく気持ちが良い方向に切り替わっている時期なのか、流れが良くなり、悪い時期が短くなる雰囲気を感じている。少しずつ良くなる方向で推移していくと期待している。
		住関連専門店（仕入担当）	・現況に慣れた消費者がその中での消費を考え出し、住関連品にも回りだした感覚がある。
		一般レストラン（経営者）	・気候に左右される地域だが、客の動きと単価は1月より2月、2月より3月と多少上向いている分、期待できる。
		一般レストラン（経営者）	・卒業、入学、就職のシーズンになり、客の動きが多くなる上、観光シーズンになり、遠隔地からも客が来る。
		観光型ホテル（営業担当）	・特にインターネット予約と、オフシーズン限定のツアーが好調なため、業績は多少伸びている。また、リゾート関連ではオンとオフでの繁閑の差が少なくなっている。
		通信会社（経営者）	・一般、官公庁共に年度末から来年度に向けての受注が来月から伸びる兆しがある。
		通信会社（販売担当）	・新入学、新生活の時期になって携帯電話の販売数が増えてきていることに加え、子供のもののついでに自分の携帯電話を機種変更する客が増えている。
		テーマパーク（職員）	・シーズンを迎えることから良くなるものの、新規展示物の完成から1年が過ぎる4月からは前年割れが予想される。
		その他レジャー施設 [アミューズメント]（店長）	・親子どちらにも魅力的なキャラクターのおかげで、その景品やゲーム等、親子で一緒に来店する機会が増えている。春休みからゴールデンウィークに向けて連動性の高い映画公開もあるため、来客数が増える。
		美容室（経営者）	・美容院は3月には卒業式等で忙しくなる上、複数の施術をする女性客も増えるので売上、単価共に上昇する。
その他サービス [立体駐車場]（従業員）	・周辺の商業施設ビル、百貨店、スーパーは決算期を迎え、かなりの追い込みで販売増になっており、来客数も増えている。また、4月には駅前の再開発ビルがオープンする予定なので、来客数が増え、今後はやや良くなる。		
その他サービス [フィットネスクラブ]（マネージャー）	・雇用関係の状況が良くなってきている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		設計事務所（経営者）	・仕事量もあるので、しばらくは忙しい。
		設計事務所（所長）	・現在の状況が続くならば、建設関連はやや良くなる。
		商店街（代表者）	・年配者の購買意欲が以前より非常に悪くなっているので、春夏ごろにどう動くか心配である。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・客は必要な物だけ購入し、余分な物はどんな仕掛けにも乗ってこない現実的な消費をしている。物やメンテナンスで消費者に訴えることは難しく、より安価な方へ流れていく傾向がある。小売店と量販の違いが価格だけになると、ますます厳しくなる。
		百貨店（営業担当）	・ファッションに関する購買意欲が強く感じられる。
		百貨店（販売促進担当）	・今月は、好調に推移しているが、小麦や原油価格の高騰など、消費行動にマイナスとなる要素があり、楽観視できない。
		百貨店（販売促進担当）	・店全体としてはやや底をついた感があるが、住関連商品、子ども服は苦戦している。苦戦している商品群は他店との価格競争が背景としてあり、消費者の低価格志向がうかがえる。逆に堅調な衣料品や雑貨等ではブランド回帰の傾向もあり、今後の景気浮揚に期待が若干持てる。
		スーパー（経営者）	・需要に対して店舗が過剰な状況は続く。
		スーパー（総務担当）	・狭い地域なので、競合店が良ければ当店が悪い、当店が良ければ競合店が悪いという状況が続いていく。
		スーパー（総務担当）	・一部の企業では上昇傾向にあると聞かすが、政治不安等から消費の改善はまだ進まない。
		スーパー（経営企画担当）	・資源や穀物の値上げなど先行き不透明な要素があるため、今以上に良くなる可能性は低い。
		コンビニ（店長）	・交通の流れが変わったのか、客の混みあう時間帯が変わってきている。売上自体は特別変化がないので、今後様子を見ないと分からないが、あまり変わっていない。
		コンビニ（店長）	・売上額が前年を上回っているのは増税効果の出ているたばこくらいで、他はほぼ前年割れの状態が続いている。近隣の商店街で商店の競売物件がこのところ増えていることから、来客数は増えようがない。まちなか再生活動がようやくプラスになりそうだが、それより大きくマイナスに振れているのが現状である。世界情勢によって大きく変わる可能性もあるが、あまり変わらない。
		家電量販店（営業担当）	・景気が良くなる状況は全く感じられない。
		乗用車販売店（営業担当）	・ゴールデンウィーク直前に、ガソリンが値上がりすると報道があり、買い控えが予測される。
		乗用車販売店（販売担当）	・毎年、3～5月は入社を控えた新卒の客に車が売れる時期であるが、目先に景気が良くなるようなことが起きてないので、2～3か月先も今の状態が続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・自動車の性能が良くなっていることと、若者の車離れによって、自動車業界に今までのような活気を取り戻すことが出来ない状況が続く。少ない商談に付加価値をつけて収益を上げていくことが今まで以上に必要になってくる。
		一般レストラン（経営者）	・政治、社会、経済の状況等いろいろな面から考えてもそんなに変わらない。このままの状態でもた何か月か過ぎる。
		都市型ホテル（経営者）	・期待はしたいが、まだ不安定な要素が一杯で安心出来ない。
		都市型ホテル（支配人）	・前年に比べて団体会議セミナー等の大きなものの予約は落ちているが、週末の個人客の動きがプラスになって相殺されている。
		タクシー（経営者）	・下げ止まり感が見えてきているが、全体としては景気が悪いのでこの先も変わらない。
		通信会社（総務担当）	・生活用品等の値上がりが増速しており、顧客の消費は低迷する一方である。
		遊園地（職員）	・先行き不透明感が解消されておらず、レジャー関連の支出抑制傾向はまだ続くので楽観視はできない。
競輪場（職員）	・他場の記念競輪の売上が全国的に変化が見られない。		
その他レジャー施設〔アミューズメント〕（職員）	・客は自分が楽しむことに関してある程度お金を使うことのために少なくなってきたようである。先月、今月とまずまずの状態できたので、これから極端に良くなるとは考えられないが、この状態が続く。		
その他サービス〔清掃〕（所長）	・送別会や歓送迎会等の規模の縮小や回数の減少傾向が続いており、期待できない。		
住宅販売会社（従業員）	・建築資材にやや不足感が出てきており、今後の価格上昇が懸念される。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・学校関連の販売が終わると、今度は一般のスポーツ用品の販売に入るが、景気はあまり良くないようなので、やや悪くなる。
		商店街（代表者）	・隣接する駅前大型店が4月に移転のため閉店するので、その影響が大きい。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・人口が増えない中でスーパーが乱立しており、売上は落ちる一方である。
		百貨店（総務担当）	・チラシを見比べて同一商品がより安い方へと足を運んでいることで、客がシビアになっていることを痛感する。それとともに、必要以上に買物をしない客も多く、イベントで集客率が上がっても、一人当たりの売上単価は減少しており、景気は良くない。
		スーパー（店長）	・近隣に競合店の出店が予定されているので、その後しばらくは厳しいと予測している。
		スーパー（統括）	・野菜、穀物等の農産物や原油の価格が高騰している影響か、加工食品、生鮮品の仕入価格が押し上げられており、品不足とも相まって、消費意欲にブレーキがかかることが懸念される。
		コンビニ（経営者）	・道路の開通や競合店の新規開店により多少不利な状況になる。
		乗用車販売店（経営者）	・最需要期の3月以降は販売量が減少する。
		高級レストラン（店長）	・消費者の低価格志向が強い中、野菜や小麦、コーヒー、石油など、原材料費の高騰によりかなり厳しい状態になることが予想される。
		一般レストラン（経営者）	・仕入価格が上昇する中で、消費者の意識は低価格化へ向かう一方であるし、提供する側もそれに踊らされるばかりである。
		観光型ホテル（スタッフ）	・食材の値上がりや中東情勢の影響を受けて石油、ガソリン等の燃料供給価格が不安定になってきている。
		旅行代理店（副支店長）	・不安定な政権に加えて、中東の政情不安、ニュージーランドの地震等、海外旅行を冷え込ませる要因が後を絶たない。今後、石油価格の高騰は必須であり、燃油サーチャージの高騰等が目に見えている。
		旅行代理店（副支店長）	・春先から夏にかけての受注量、売上は共に現況60%くらいであり、今後も大雪、中東の暴動、原油高の影響が出る。海外旅行についてはこの先受注が厳しく、特に欧州方面は皆無に等しい状況である。
		住宅販売会社（従業員）	・増税懸念、ガソリン価格の上昇、企業収益の改善が個人収入には波及しない等の要因から、消費、特に高額消費財の購買意欲が低迷し続ける。
	悪くなる	商店街（代表者）	・来月中旬には、また大きな郊外ショッピングセンターが開店するため、中心部が更に沈下するのではと不安である。
		衣料品専門店（店長）	・中東情勢が不安定で、原油と食品価格が高騰して家計に悪い影響をじわじわと与え始めているため、生活防衛型の消費マインドに変わりつつある。
		スナック（経営者）	・従来ならだいたい曜日的に見通しを読めることが多かったが、現状では本当にそれも分からず、良い要素が全然見当たらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今後2～3か月先の予約状況は、各月、昨年より4～500名少なくなっている。市内に新規ホテルが4、5軒出来て、非常に安価なネット料金のところに客を取られてしまう傾向にあるので、今後当ホテルでも特別に安価な料金を設定しなければならないと考えている。
		住宅販売会社（経営者）	・不動産デフレと下落がまだ進んでいるので、もう少し待てばもっと下がるだろうという客の機運が相変わらず強くなっている。買いたい意欲はあるが、下がるのを待っている状況である。
		住宅販売会社（経営者）	・中小企業の状況が思ったより悪く、景気も更に悪くなる気配がある。大企業のみ利益が出る状況が更に進んで、中小企業には倒産などが増加し、不動産を購入する余裕などない状況になる。
企業動向関連	良くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・アジアの需要に引っ張られる形で、油圧機器、建設機械の仕事は引き続き増産傾向が強まる。春先に主要顧客の新規ラインが稼動することから、更なる増産は必至の状況である。
	やや良くなる	一般機械器具製造業（経理担当）	・ものづくり業界で少しずつ量が増えてきており、景気は良くなる。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・各取引先の受注残が2～3か月先まで非常に好調なので、このまま良い状況で推移する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		不動産業（営業担当）	・ホテル事業の方では各企業に少し良い状況が出てきて、人の出入りや出張が増えている。賃貸事業では、テナントを退去したいという話もあり、企業によって少し厳しいところもあるが、全体的な雰囲気は良い。
	変わらない	食料品製造業（営業統括）	・相変わらず安価な輸入ものが主流を占めており、付加価値の高い国産ものは苦戦を強いられていく。
		化学工業（経営者）	・3月は期末の駆け込み需要があってもまずまずであるが、4月以降新年度に新しい注文が入ってくる兆しがまるでなく、相変わらず市場は冷えたままである。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・贈答品販売の動きが出なければいけない時期ながら、PRしても節句贈答品の受注がまれにある程度で、動向は予想が立たない。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・悪い状況には変化が見られない。
		金属製品製造業（経営者）	・建築関係の得意先からもう1年以上、これから良くなるという話を聞かされてきたが、全然そういう傾向は無く、仕事の量は少なくなつて単価も下がっているもので、先のことが分からず、希望を持っていないのが現実である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車部品は微減で建設機械部品は微増という現象が続いている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・長期的な受注に乏しく、非常に不安定である。4月以降の見通しは立っていないが、なんとか継続を図っている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・全国的なマスコミの景気動向の評価には、地方や中小零細企業の現状が反映されていなく、現実の姿は厳しい。
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・前期が悪くないので今期も変わらない。
		輸送業（営業担当）	・家電エコポイント等も終了し、景気対策も見られず、また輸出原油国等の情勢不安による燃料高、コスト高等もある。各メーカーと運賃の値下げ交渉をしている状況から、今後の燃料、人件費や運賃に対しての採算の分岐点の見極めが難しくなっている。
		金融業（調査担当）	・製造業では、一部業種で持ち直しの動きが期待されるが、まだはっきりとした方向感が見えにくい状況にある。また北アフリカ、中東等の政情緊迫化による原油高騰が業績面に影響する懸念が高まっている。
		不動産業（管理担当）	・4月以降にテナントが入居する話はあるものの、管理している建物で設備改修の時期が重なるため、費用がかかる予定もある。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・テレビ、新聞他広告は上向いていると聞かすが、消費者にとって一番身近な媒体であるチラシにその気配はまだ見当たらない。旅行会社では最近の中東から始まった政情不安や地震の影響がすでに出ており、代替などの対応に追われていると聞いている。
		社会保険労務士	・新年度に入っても大きく経営状況が変化すると考えている経営者がほとんどいないので、春以降もただらだと今の状況が続く。
		司法書士	・今後の設備投資に向かって行くような投資が今のところないので、変わらない。
	経営コンサルタント	・建設業、同関連業種をはじめ、一般消費財関連の販売業、個人向けサービス業に至るまで、利益確保が難しい状況が続いている。なお、新興国から部品調達等を行う下請型製造業などに先々の動きが見える。	
	その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・設備投資の老朽化による更新需要はあるが、新規投資は相変わらず厳しい状況が続いており、先行き不透明である。	
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・相変わらずの低価格と受注量の減少が続く。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・今月は納期が集中して一時的な忙しさはあったが、先行きの見通しは相変わらず不透明である。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主力受注自動車メーカーの量は増えてきているが、4月からはコストダウン要請も強まってきており、量は増えても価格は低下する。一方、燃料やガス等の原材料の値上げにより、もろもろの原材料関係の発生する部品類も上がってくるため、売上が若干増えても収益は確保しにくい状況である。
		広告代理店（営業担当）	・年度末決算に向けて、決算対策による広告予算削減の話が多く出てきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	食料品製造業（製造担当）	・デフレ下においてメーカーは店の客取り単価合戦に明け暮れる一方で、本格的に原油高が進行してきて、輸入食品原料の商社は自分たちの取り分はきちんと確保しつつ、確実に値を上げてきているので、製造メーカーは利益の確保に関して非常に厳しい局面を迎える。銀行の融資も一段と厳しくなると思われる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・これから6月までは現状で推移し、かなり売上はあるだろうが、万が一不渡りが出た場合、資金回収の面で不安がある。また、中国への生産移管によって非常に厳しい状況になる。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・中東情勢の影響で金、プラチナの高騰が続いているが、店頭での販売不振から商品価格へ反映するのが難しい状況である。低価格品に動きがあるものの、金の高騰から要望される価格帯の商品が作れない。
		建設業（総務担当）	・2月現在では前年以上の受注が出来ているが、今後も同額入札によるクジ引きが続き、神頼みの心配な状況は変わらない。新たな受注先の開拓が必要であるが、これも難しい状況である。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	—	—
		人材派遣会社（管理担当）	・現在が底の感じであり、企業が正社員を採用する限界にきているので、派遣社員対応が増えると予測している。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・今後2～3か月先の身の回りの景気は多少良くなるものの、昨年と同時期と同じくらいである。中小企業の求人はこれから新卒者を採用するところもあるが、中途採用の正社員募集は依然として少ない。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・これから新年度の切り替え時期になるので、いくら少ないとはいえ、新入社員の採用が増加する。製造業、サービス業、教育部門は特に増える可能性があるが、自動車関連はほぼ横ばい状態で、消費者関係の衣料や食料品、青果はなかなか厳しく、良くなるとは見越していない。ガソリン、灯油も上がってきており、原油価格高騰なども若干影響する。
		人材派遣会社（経営者）	・企業関係は忙しそうだが、その割には仕事や売上が増えていない。
		職業安定所（職員）	・エコカー補助金終了や家電エコポイント制度変更に伴い、自動車部品、薄型テレビ用品の受注が減少した企業においては、1～3月に増産が見込まれるが4月以降の見通しが立たず、改善の動きが足踏み状態になる。
		職業安定所（職員）	・業績が一定回復しても、景気の先行きが不透明なために、従業員の採用にまで踏み込めない企業が多いため、雇用環境の好転はまだ望めない。
		職業安定所（職員）	・求職者も前年同月に比べ若干増えているので、この先の状況としては今月とあまり変わりがない。
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金の活用状況は、活用日数、活用人数とも減少傾向にあるものの、活用企業数は同程度となっており、23年春以降の活用相談も目立っている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・将来への様々な不安要素が無くならず、経営者マインドは慎重な姿勢が続く、好転する強さが感じられない。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・大手企業の海外進出に伴う離職者が出始めている。また、人員整理等が予定されている企業も見受けられ、今後は製造業を中心として、やや景気が悪くなる。ただし海外需要はまだあるので、減産は先になるだろうが、やはり今後はやや悪くなる。	
悪くなる	—	—	

#### 4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・家電エコポイントが3月までであることと7月のアナログ放送終了に伴い、7月までは売上は良くなる。テレビの画面に地上デジタル放送を急がせる表記があるため、客も買い急いでいるようである。
		旅行代理店（支店長）	・2～3か月後は大型団体の受注がある。具体的には宗教の遠忌が京都で開催されたり、5月に大会ものがあつたりということで、イベント関係の需要が大きい。また、4月も年度初めだが動くような傾向があるので、良くなる。
	やや良くなる	一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・3月半ばに新店舗がオープン予定なので、開店景気で売上が見込める。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・3、4月は展示会もあるし、新年度、異動等もあり、いろいろな商品が新製品に変わるので期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔祭用品〕 (経営者)	・4月の統一地方選挙により、若干ではあるが動き出している。
		一般小売店〔家具〕 (経営者)	・3月は年度末、4月は新年度ということで、人の異動があると商売につながる。
		百貨店(営業担当)	・売上、来客数ともに前年を上回る、前年末からの回復基調が続く。
		百貨店(販売促進担当)	・現在は家族に関連するオケーションニーズが客単価をけん引しているが、実は春コートなど自分のためのファッション購買も前年に比べてやや早い動向となっており、個人消費伸長が期待できる証左と考えたい。ただし、アイテムによって売行きに差があるため、春夏ファッション本格稼働期での商材確保の見極めを今から仕込むことが必須である。
		百貨店(副店長)	・当面は一進一退を繰り返すと考えられるが、人気商品や新商品への反応が今までより早く、高くなっているため、やや良くなる。
		スーパー(店長)	・もういい加減、こういった状況から脱していかなければならない。従業員のモチベーションの問題もあるので、3か月後は予算必達ということで店全体を盛り上げていく。客にも気持ちよく買物をしてもらい、1点でも多く買ってもらうようにしていきたい。
		コンビニ(店長)	・客の動き、買物の様子から、次第に景気は良くなる。少し景気が戻りつつあるという報道があるのも、客に少なからず影響を与えているようである。
		コンビニ(商品開発担当)	・新商品を販売した時の買上率が確実に上がってきているため、やや良くなる。
		衣料品専門店(経営者)	・1、2月とも前年を超えてきているので、3月からも良い。価格の高い商品の動きが良くなっている。
		衣料品専門店(経営者)	・景気が良くなるとは決して思えないが、今年はいつもの年より春物がやや早めに売れ出しているため、旅行や外出用のおしゃれ着に期待している。
		家電量販店(営業統括)	・3月末はエコポイント対象商品の最終購入期限となる。新生活と重なり、販売数量増加を見込んでいる。しかしながら製品単価の下落は止まらず、薄利多売の状況から脱することができない。景気に対する世論が上向きになってきているが、中東情勢、政府の動きなど不穏な空気も流れており、予断を許さない状況である。
		乗用車販売店(経営者)	・国外の社会情勢に不安があるが、国内は購買意欲が徐々に高まってきている。あとは政治が安定すれば、ますます良くなる。
		乗用車販売店(従業員)	・ハイブリット車を買おうとする客が多数来店し、今後、景気は良くなる。
		その他小売〔ゲーム〕 (開発戦略担当)	・5月の海外イベントまでは、新ハードが市場をけん引しつつも静かな推移となる。
		旅行代理店(従業員)	・業務性渡航において、企業業績の回復が徐々に反映されてくる。
		旅行代理店(営業担当)	・キャンペーン商品の販売が上向きである。
		通信会社(経営者)	・アナログ停止が迫り、ケーブルテレビでの対策が期待できる。
		通信会社(営業担当)	・7月のアナログ停波を前に駆け込み需要がかなり増える。
		通信会社(営業推進担当)	・7月に地上デジタル放送の対策をしようとする消費者は少なく、5～6月をピークに済ませようとする動きが出る。
		その他レジャー施設 〔ボウリング場〕(支配人)	・企業の予約が若干だが戻ってきている。
変わらない		商店街(代表者)	・客は財布がないわけではないが、ひもが固く、緩まない。もう少しムードが上がってくれば良いが、今のところ良くなるような兆しはあまり感じられない。
		一般小売店〔文房具〕 (経営者)	・同業者が少なくなっているが、客はどうしても必要な物があるため、それを確実にそろえてやっていく分には良いようである。
		一般小売店〔印章〕 (経営者)	・店への来客を待つというよりは、インターネット等を使っただけの攻める商売をこれからは手掛けなければいけない。それは当然もう遅いだろうが、これから何か新しいビジネスチャンスを狙うことしか考えられない。
		一般小売店〔衣料・雑貨〕 (経営者)	・春物の動きは悪くなく、綺麗な明るい商品が売れている。ただし、客の買い方が慎重になっているため、更なる工夫が必要である。
		一般小売店〔米穀〕 (経営者)	・街の景気の流れは簡単に変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・まだ節約志向が見られ、余計な物は購入しないという客が目立つ。3月以降は汎用性を重視した商品をクローズアップしないと動きが鈍る。
		百貨店（総務担当）	・当店や近隣店の売上を見ると、前年売上に絡んでいるものの、確実に前年を超える状況にはなっていない。当分は、前年実績を上回ったり下回ったりという推移をする。
		百貨店（総務担当）	・今月は売上、客単価など幾分好調に推移したが、高額品や美術宝飾などのいわゆるぜいたく品についてはまだ動きが鈍い。今後ガソリン価格が値上がりしそうな状況もあり、楽観視できない。
		百貨店（総務担当）	・購買率、客単価ともに前年を下回っている状況で、依然として景気が上向き要素が見当たらない。
		百貨店（企画担当）	・経済動向は明るい観測となっているが、現政権での予算成立に関する部分での混乱など不安材料も少なくない。ただし、大きな流れでの消費に対する底堅さは継続できる。
		百貨店（広報担当）	・売上は10月から連続して前年を上回っているが、来客数は11月以降下回っている。1品単価は横ばいながら買上数量が増加傾向のため、客単価は上がっている。売上はカバーできているが、客数の推移が気になるため、変わらない。
		百貨店（営業担当）	・物価の上昇による購買単価の微増は続くと予想され、その影響による売上増加が見込まれる。この傾向が続けば今後現在のペースを保つことができると思うが、原油高騰、食品の価格上昇の影響が4月以降どのように購買に影響するかは不透明であり、顧客の購買動向には注視していく必要がある。
		百貨店（営業担当）	・政局が不安定で、原油価格も高騰し、生活密着商品の小麦も原価が上がるなどの報道に、顧客の財布のひもは依然として緩まない。
		百貨店（販売促進担当）	・良くなる要素は見当たらない。新しい企画でも最初だけしか効果がない。
		スーパー（経営者）	・特売の立ち上がりの火曜日と日曜日は非常に売れるが、それ以外の日に売上を落とすパターンがずっと続いている。週末で売上の山をつくり、週明けで落としてしまう。2月は前半は割と良かったが、後半は天候不順で少しの雨でも大きく来客数を落とし、売上も落ちる傾向になっていた。そのあたりの取りこぼしで、相変わらずあまり良くない状況は続く。
		スーパー（店長）	・先行き不透明ななか、客数、客単価、買上点数等ほぼ横ばいが続いている。買上点数、客単価の変更はあると思うが、さほど大きな落ち込みや上昇はない。
		スーパー（総務担当）	・可処分所得が伸びていないなか、客自身の動向は良くなっているが、原油高、ガス代、水道代の値上げ及び今後の不透明さから見ると、このままあまり良くない状況が継続する。
		スーパー（仕入担当）	・節分のような行事に繁栄への祈りを願う催事を上手く活用していけば、大きな売上につながる。これからは行事、催事的に提案をしていかないと、なかなか消費自体を喚起していくことはできない。
		コンビニ（経営者）	・前と比較すれば理想という感じがする。厳しい場合もあるが、どちらかというとも財布のひもが少し緩んでいるようである。
		コンビニ（経営者）	・高い弁当等は売れ残り、安い弁当が良く売れており、客の不景気感はぬぐえない。
		コンビニ（経営者）	・売上、客数、客単価ともに上がっているが、その上がり方がすごく緩やかである。右肩上がりは毎年2、3月～夏に掛けては普通のことなので、このカーブの角度がどれだけ上がるかと考えると、まだそれほど変化はない。一層、客に来店してもらえようような努力が必要である。
		コンビニ（経営者）	・売れ筋商品は変化しているが、客の財布のひもは固く、売上、利益ともに横ばいが続く。
		衣料品専門店（経営者）	・今までメーカー、小売店、問屋も目一杯利益を削ってきたが、このところ微妙に値上げの話も出てきたため、消費者心理を更に冷やすのではないかと心配している。
		衣料品専門店（店長）	・収入が伸びない現状では、衣料品の購入を抑えてガソリン等の高騰に対処するしかないため、買い控えが続く。
		乗用車販売店（経営者）	・例年の2月とは客の動きが違うのが気になるが、補助金終了後の反動は薄らいできている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・中東情勢の悪化で、原油が相当上がってきている。当社が付き合っているトラック運送業は、原油、灯油、軽油の悪化が一番景気に響く。いろいろな形で人件費や経費の削減をしても、原油が上がって燃料が上がるともう削減のしようがない。ますます様々な面での設備投資ができず、当然新車も買えない。中東情勢が落ち着いていかないと、原油高の中で今後とも運送業者は大変である。
		住関連専門店（統括）	・これから若干の繁忙期に入るため、多少は売上が伸びると思うが、それ以前に大分落ち込んでいるため、現状を維持するような形になる。
		その他専門店〔服飾雑貨〕（統括）	・先行き不透明感や来年度予算不成立といった不安要素がメディアから流れ、客は保守的になっているようであり、来店頻度及び買上単価の減少傾向は変わらない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・消費動向はまだ慎重であり、財布のひもは非常に固い。今後の本格的な春物商戦に期待をしたい。
		高級レストラン（支配人）	・当社を利用する企業の業績は、以前に比べると良くなってきている企業のほうが悪化している企業を上回っている。ただ、個人消費についてはまだ回復途上で、トータルでは数か月先についてもあまり変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・前年比での客数、売上とも今月は改善したが、まだ100%をクリアできていない。まずは100%を超えないことには上向きにならない。
		一般レストラン（経営者）	・既存の飲食店閉店の後、飲食を含めチェーン店の入居が目立つ。
		一般レストラン（店長）	・客に話を聞くと、給料は下がったまま上がらず、世の中の雰囲気も良くないという声が多いので、2～3か月先に良くなるとは思えない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・原材料費の高騰や政治の混迷等、不明瞭な点が多い。
		旅行代理店（経営者）	・通常、2月早々から春の予約等が入るはずなのだが、天候も不順、景気も不安定なため、何となく皆が二の足を踏んでいるような状況で、先行きは少し見当が付かない。
		旅行代理店（従業員）	・前年同期比100%とまだ予断を許さない状況である。
		旅行代理店（従業員）	・4月以降、国内航空運賃の値上げや機材の縮小があり、飛行機を利用した団体旅行で団体の席が確保しづらくなるなど影響がある。
		タクシー運転手	・若干上向いてきているような話を客から聞くが、果たしてこれが本当に上向くのかということは3月の結果を見ないと何とも言えない。分かれ道に来ているように感じている。
		通信会社（局長）	・政権の不安定さから客の心理としては出費を控える傾向がいまだにあるが、実際収入が減少しているようには見えない。ただし、すぐに動きが活発になるという状況ではない。
		通信会社（営業担当）	・デジタル放送完全移行に向けての駆け込み需要はあるものの、既に対策し終わっているケースが大半であり、大きな伸びは期待できない。
		通信会社（営業担当）	・地上デジタル放送への対策も残り半年を切ったが、いまだに対策をしていない住宅が多い。
		通信会社（営業担当）	・地上デジタル放送完全移行に対する理解が深まるにつれ、アンテナ切替えによる解約も増える。
		通信会社（支店長）	・スマートフォンの新規需要、機種変更の需要が当面継続する。
		通信会社（管理担当）	・春以降の動向は不透明だが、7月の完全地上デジタル放送化（アナログ放送終了）までは、落ち込みはない。
		パチンコ店（経営者）	・2～3か月先は暖かくなり例年良くなってくる時期だが、例年と比べて特別良くなるという期待はできない。今、客は低玉貸してお金を使わないで遊ぶとか、少しお金を使いそうになったり使ってしまったらすぐに帰るといった傾向にあるので、なかなか厳しい。
		その他レジャー施設〔ホール〕（支配人）	・近隣にあるショッピングセンターは話題作りも成功し、売上も好調のようだが、周辺の他の商業施設はその影響を受けている。当施設では主催公演の内容を充実させ、広報活動を強化し購入者を増やす努力はしているが、今しばらくは趣味や余暇への個人支出は抑えられるのではないかと見ている。
		その他レジャー施設〔アミューズメント〕（店長）	・ここ2か月間緩やかに伸びてきたが、これ以上に伸び代と呼べる要因が見当たらない。今をピークとした流れが続くそうである。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・プロスポーツのシーズンインなど季節性のプラス要因はあるが、税制改正法案や予算不成立などの政局不安がもたらすマイナス要因に打ち消されてしまうため、変わらない。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・客数が増える要因がない。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・やや下げ止まった感はあるが、まだ上昇傾向にはない。したがって景気の回復はまだ先である。
		設計事務所（所長）	・官庁業務を9割程度行っている。国の予算が早期に決まらなければ地方行政への影響が大きいので、政局の動きが心配である。
		設計事務所（所長）	・今いろいろな情報が入らないうちは先行きは望めない。設計の情報がないと施工ももっと先になってしまう。
		住宅販売会社（従業員）	・マンションの新築分譲が増えたとのニュースがあったが、当商圏では、新築マンションの販売は大変苦戦している。景気の変わる要素が見当たらないので、変わらない。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・今のこの流れは継続する。ただし、年度末で建材の一番の需要期ということもあるので、しばらく状況を見ていかないと、今後どうなるのかは分からない。
	やや悪くなる	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・今月は特に良かったが、この状態が今後とも続くとは思えない。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・客は駅前の便利な場所から雑居ビル等、駅から遠い不便そうな場所に移転している。その都度、今までのように給茶機等でお茶を飲める環境から福利厚生費の削減という話を聞いている。
		百貨店（広報担当）	・中東情勢など世界的に不安定で、国内でも政治が落ち着かない。百貨店の商品には生活必需品が少なく、たとえ家庭内の資金に余裕があっても、このような環境では足が遠のいてしまう。国内外がもう少し落ち着くまで、百貨店を取り巻く景気の先行きは見えてこない。
		百貨店（販売管理担当）	・中東諸国の政変に伴う原油価格高騰の兆しによる購買意欲の低下、アパレルを中心とした中国工場の生産制限や納期遅れ等の実態から、現在よりも悪化する要因が多いので、やや悪くなる。
		百貨店（店長）	・子ども手当に始まり、年金問題や消費税増税等、国内政治が混乱するなか、中東諸国の情勢不安による原油及び食料問題で原材料が値上がりし、製品も値上げされるので、消費は今以上にシビアになる。
		スーパー（店長）	・商圏は限られており単価の上昇が望めないなか、競合店も出店し、より一層価格競争も激化している。しかも客は1品単価の低い商品を支持する傾向にあり、ますます状況は厳しくなっている。
		スーパー（店長）	・家電エコポイントが間もなく終了することや、中東やアフリカの政情不安による原油高への懸念、3月からコーヒーや油の値上げも予想されており、不安材料が非常に多いので、先行きはやや悪くなる。
		スーパー（仕入担当）	・原料相場の高騰により、一部商品の値上げが予定されており、駆け込み需要による一時的な伸びが期待できるが、値上げ後の落ち込みを合わせると大きな効果はない。
		衣料品専門店（経営者）	・実需型の消費行動をする今の客では、春物の大きな増加は期待できない。商材的にも大きなモード変化はなく、昨年とあまり変わらない。単価の低下とともに売上が懸念される。
		衣料品専門店（営業担当）	・売場は春物で明るくなっているが、売上は今一つである。春の実売期に合わせて、鮮度のある商品を値下げしていかないと厳しそうである。何とか前年をクリアしたいが、客の動きがなかなか読めない。
		家電量販店（店員）	・今後、低価格化が急速に進むにつれ、パソコンは厳しくなる一方である。
		乗用車販売店（総務担当）	・3月はまあまあの売行きが見込めるが、4月以降は前年比で落ちになる。昨年は補助金制度の延長でやや上向き状態が続いたが、今年はそのような後押しがない上に新型車の投入もないので、とても厳しい。
		乗用車販売店（渉外担当）	・補助金終了の影響は払しょくされてきたが、4月より自賠責、任意保険も順次値上げになる。リッターカーや軽自動車に人気は偏り、その他の車種の販売量が減り、見通しは予断を許さない状況である。
		都市型ホテル（支配人）	・先々の販売量も前年と比較して減少している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストランの予約を見ると人数は増えているものの、イベントを打っている関係で昼の予約は増えているが平日の夜はなかなか増えていない。法人の接待利用は今後ますます減少すると思われるため、その分を個人客でカバーするにも、平日夜の利用増につながる良い案が出てこない。宴会は営業を強化しており、予約の入込人数は増えているが、会議、セミナーを伴う宴席で、見積を出した段階で予算が低い場合があり、人数増が売上増に結び付くとは限らないため、今後更に集客を増やさないといけない状況である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・結婚披露宴の予約件数は全然増えず、厳しい状態が続いている。
		タクシー運転手	・先が不安で仕方ない、それこそ無駄遣いはできないと客が言っている。客数は右肩下がりの状態である。
		通信会社（経営者）	・テレビの買換えが一服し、アナログ放送廃止が7月に控えるも、顧客のデジタル化への反応は弱く、7月ぎりぎりまでこの状態が続く。また、ネットは競争激化の影響もある。
		遊園地（職員）	・国内外とも景気が良くなるような話題が見当たらない。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・昨年よりも2%生徒数が増えているが、なかには経済的な事情を理由に辞める生徒もいる。
		設計事務所（経営者）	・新しい仕事の話が全く聞こえてこない。一生懸命努力をしているが効果は表れず、先のことを考えると少し不安である。行政の仕事においても、年度末のために指名が全く無い。耐震診断等、新しい仕事を模索しているが、先が見えない。もっと民間をアタックしなくてはいけないということで、ホームページの改善等も心掛けながら一生懸命頑張っている。
		住宅販売会社（従業員）	・ここ半年くらい悪い受注状況が続いているため、今後の売上が心配である。
	悪くなる	商店街（代表者）	・3月中旬に周辺地区に大規模な商業施設がオープンするので、少なからず影響が出て悪くなる。
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・競合店の出店が続く、消費者の流れが変わる可能性が大きい。
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	・4月の地方選挙で落ち着かないために、なかなか消費のほうに回らなくなり、悪くなるのではないかと心配している。
		スーパー（ネット宅配担当）	・低価格路線の競合店出店に伴い、価格の下落、収益の悪化が予想される。特に、加工食品を中心に周辺の販売価格が乱れる可能性があり、厳しい状況が続く。
		コンビニ（経営者）	・国内、海外ともに政治的な混乱が経済に悪影響を及ぼす。
		家電量販店（経営者）	・エコポイント制度の終了の3月末に向けて大きく盛り上がるが、一転して4月以降は反動で厳しくなる。
	乗用車販売店（店長）	・中東情勢悪化による原油高騰に伴い、ガソリンも値上がりし、鉄もやはり上がっている。自動車販売業界には良いことはない。	
	その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・営業から撤退していく客が続出している。これでは近い将来やっていけなくなる。	
	都市型ホテル（経営者）	・コーヒーを始め小麦粉、原油関係の高騰が続く、非常に採算の悪化が見込まれる。売上も低迷しており、利益が減少するというより赤字に転落しており、経営状況が非常に厳しい。	
	タクシー運転手	・中東の民主化が落ち着くまではガソリン価格が高騰し、株安円高が続くと思うので、景気は良くなるならない。	
	その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・景気が上向く要件が見当たらないうえ、混沌とした政治不安と景気対策がもたらす先行きの不透明さ、不安、失望感がまん延している。	
	設計事務所（所長）	・不安定な世界情勢など、いろいろな面において良い要素は1つも無い。特に、建設関係は激減が大いに予想される。	
企業動向関連	良くなる やや良くなる	—	—
		食料品製造業（経営者）	・引き合いが多くなってきているので、徐々にそれが数値化してきてやや良くなる。
		金属製品製造業（経営者）	・既存の得意先の仕事では自動車関係の資材用金型を作っているが、新年度から数が増えるということである。新規取引先も3～4月に掛けて仕事量が多くなると言っているので、期待している。
不動産業（総務担当）	・空室のままよりは良いだろうと、半ばあきらめ気味の感もあるのだが、賃料水準を下げることにより、新規入居の問い合わせが多くなってきている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	繊維工業（従業員）	・原料の高騰、品物薄の状況は、当分解消しない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・石油の値上がりを取りざたされているが、石油価格が上がると、プラスチックを始めインキなどすべての材料が値上がりする。ただし、単価は良くて据え置き、悪くすれば値下げをさせられるようになる。少ない仕事を皆で取り合っているため、自分だけ強がりと言っても仕事が無くなるばかりである。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・現状から悪くなることもなければ良くなるようにも感じない。この状態が底と思い、上がることを期待したい。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・例年2月は今年ほどの注文はないが、本当に景気が上向いたのか、今月だけのことなのか、今の段階ではまだ判断し兼ねる。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・経費削減で抑えられていた物の発注が、若干ではあるが戻ってきている。全体的には前年と同程度の利益確保はできるが、それ以上にはならない。
		化学工業（従業員）	・客先と打ち合わせをしても、先行きの製品の動きが全然見えてこない。景気が良くなる要因は無い。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・従来品の受注はある程度見通しが付く状況だが、円高の影響で業種によっては受注が減少しており、先行きは不透明である。また、ここに来て中東情勢の悪化による原料単価の上昇が心配である。
		金属製品製造業（経営者）	・今年になって取引先各社からの受注量が上向きであり、2月もその傾向が続いている。ある取引先から休止していた設備を動かすためのメンテナンス依頼があった。ただし、受注価格は相変わらずの厳しさである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今までの客が全体的に地盤沈下状態なので新しい客を開拓している。新規客の品物が立ち上がるまでは2～3か月掛かるので、既存客の落ちる分を新規客の売上で食い止めたい。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・特別良くなるとか悪くなるということはない。今のままでいくのではないかと状況である。
		建設業（経理担当）	・当地域で景気が上向いているという企業の話は聞かない。都心の大企業は利益を出し始めているということだが、当地域にこの景気が来るのはいつのことなのか、全然見通しが付かない。
		輸送業（経営者）	・景気が上向きと報道されているが、身の回りではそういう気配は全く見えない。
		通信業（広報担当）	・日本経済は踊り場を脱するとみられるが、中小企業に波及するにはまだ力不足なため、先行きは変わらない。
		金融業（支店長）	・好転する材料があまり多くなく、海外情勢等で不安材料はたくさんある状況なので、それほど大きくは変わらない。
		金融業（役員）	・政治の混乱が一番の要因で、二番目は相変わらずの円高で部品メーカー等の輸出が厳しいことが挙げられる。
		金融業（支店長）	・円高は一服感があるものの、1ドル80円台半ばで推移しており、輸出企業の海外での価格競争力は乏しいと言わざるを得ない。内需も依然低迷しており、業績回復の兆しはまだ見えない。
		広告代理店（従業員）	・受注、販売共に現状維持の状態が続く。
		税理士	・景気回復の材料が見当たらない。
		社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない。
		経営コンサルタント	・中小企業金融円滑化法が施行されて1年になるが、中小企業の業績は回復感に乏しい。銀行担当者からは、返済猶予期間延長の半分以上は再建の難しい案件という。制度が延命措置として使われている状況だが、期限切れになる5月以降は債務整理に着手する動きが出てくるのではないかと見ている。
		経営コンサルタント	・原油高、原材料高の懸念がある。
		経営コンサルタント	・まだまだ良くなるという傾向にはない。これが普通であるとの認識で各社努力するしかない。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・先行きは大変不透明で予測が立たない。今のところ良くなるような要因はない。
その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・中国関連の新規事業を立ち上げたが、実績が出るまでには時間が掛かるので、変わらない。		
その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・3月の申込が予定より少なく、今後の伸び方が見えてこない。		
やや悪くなる	プラスチック製品製造業（経営者）	・原油国での国内情勢の不安定さによる原油価格の高騰、国内の政治情勢の不安定さなどを考えると、先行きの景気はやや悪くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・円高による輸出への影響、原油価格による購入品等の値上げの影響で、やや悪くなる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・経済界としては上昇雰囲気ではあるが、国内政局の混乱による予算の不成立、原材料や原油価格の高騰と、不安要素があり安定しない。
		建設業（営業担当）	・顧客や同業者の規模が縮小されていく中で、設備投資を控えるようになり、案件が中止されるケースが多くなってきている。
		輸送業（経営者）	・高値で安定してきている燃料価格は、原油産出国の政情不安等により更なる高騰が予想される。関連製品の値上がりも含め、経営を圧迫することが危ぐされる。
		輸送業（所長）	・一番の心配は燃料価格が上がることである。中東情勢はしばらく混乱したままなので、原油価格は上がり続ける。その分出荷が増えてくれればプラスマイナスゼロとなるが、現状では見込めない。
		金融業（支店長）	・売上が低迷し、自己資金が少なくなり、条件変更する融資先が増えている。また、倒産件数が増えており、個人では自己破産が増えつつある。今後も仕事、売上の目途が立っていない客が多いことから、徐々に景気が悪くなり、倒産件数が増える。
		不動産業（経営者）	・来客数より空室物件の数が上回っている状況なので、やや悪くなる。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・4月に入ると受注が減少すると予測している。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・リビア等中東情勢の影響で原油が上がり、輸送トラックや機械の燃料、原材料への値上げが始まってきており、利益が圧迫される。
		悪くなる	
輸送業（総務担当）	・公共事業関連の製品の荷動きは期待できない。輸送量の減少と燃料高の影響で、非常に厳しい経営環境で先が見えない状態である。		
広告代理店（経営者）	・今の時期にこれほど引き合いがないと、3か月後の新規案件はほぼ見込めず、既存案件の予算も削減傾向なので、恐らくひどい状態となる。		
雇用 関連	良くなる やや良くなる	—	—
		人材派遣会社（支店長）	・地上デジタル放送関連や通信関係、通販等で人材を増やす傾向がある。
	人材派遣会社（営業担当）	・企業の前向きな取組みが長期的な雇用を生めば、雇用は回復方向に向かう。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	・採用マーケットで考えると「既卒3年まで新卒扱い」、「グローバル人材採用」等、新しい採用の場が発生してきたので、企業の採用手法、予算の使い方が変革の時期にある。マーケットを開拓する余地があり、採用支援企業にはチャンスである。	
	求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人数や職種、雇用形態の動きにはさほど変化が見られないが、今月は求人に関する問い合わせがいつもより若干多い。あくまでも検討段階だと思われるが、新年度に向けて動く気配を感じている。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新年度ということで、何社かで新たな事業計画がスタートすることもあり、今の規模にもう少し上乗せした形で受注、売上が増加すると予測している。	
	職業安定所（職員）	・派遣等の非正規求人が多いものの、求人数が微増してきている。	
	民間職業紹介機関（経営者）	・システム、技術系中心に求人数が増えてきている。	
	民間職業紹介機関（経営者）	・国内だけではなく海外に関する案件も少しずつ出てきており、求人の内容が幅広くなってきている。	
	変わらない		人材派遣会社（営業担当）
人材派遣会社（支店長）			・直接雇用や請負のニーズは高く、派遣は使いづらいという印象を持つ企業が多い。
求人情報誌製作会社（営業担当）			・取引社数はある程度増加することが予想されるが、単価の減少がそのプラス分を吸収するので、変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・新規求人数及び新規求職者数は、前年度と比較すると、いずれも微減の状況が続いている。新規求人数を業種別で見ると、特に建設業と宿泊業、飲食サービス業の落ち込みが激しい。個人消費が増加すれば新たな雇用も増加すると思うが、家電エコポイント等の終了で個人消費の増加は見込めず、しばらくは厳しい雇用情勢が続く。
		職業安定所（職員）	・受注量の増加から雇用調整助成金の申請は減少傾向にあるが、大きな変化は無い。
		職業安定所（職員）	・求人数は3か月前と比べてそれほど増えておらず、例年の同時期と比較しても少ない状況にあるため、今後、就職者が増えるとは予想していない。
		民間職業紹介機関（職員）	・今の状態は悪くないが、それがそのまま上がっていくと見切れる要素がまだ明確にないため、変わらない。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・今月から当短大の実績先の企業訪問をしているが、まだ23年度の採用予定が立たないという企業が多い。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・今後の採用計画を確認したところ、前年度より募集再開や採用数の増加を決定している企業は少なく、新卒学生の雇用環境の厳しさは変わらない様子である。
やや悪くなる		人材派遣会社（営業担当）	・官公庁の契約は3月末での終了が既に決まっており、4月以降については改めて入札になるため、現状より安価でないと落札は難しいと思われる。一般企業でも3月末で契約終了になる派遣先が多く、4月以降の交代の必要がない派遣先も少なくない。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・新年度に向けたアルバイト、パート、社員採用の動きが強く求人情報誌が増えているが、募集背景としては欠員補充の動きが主体となっている。事業拡大に向けた増員計画等がまだ弱いため、採用活動のピークが過ぎれば求人情報誌が落ちる可能性が高い。
		職業安定所（職員）	・原油等資源高、円高により、経済動向を慎重に見る企業が増加し、23年度の企業の採用意欲が低くなる可能性がある。
悪くなる		○	○

## 5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	○	○
	やや良くなる	商店街（代表者）	・アナログ放送の終了が近づくため、地上デジタル対応テレビの販売が伸びる。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・贈答品店ではここ数年マイナス傾向にあったが、下げ止まっている。客の動きが活発化してきたように感じるため、今後は購買意欲が高まり、来客数の増加につながる。
		百貨店（営業企画担当）	・他業種からの競合店の出店が一段落していることや、今月の売上が良いため、3月以降も良くなる。
		百貨店（販売担当）	・客には物やイベントに対する渴望感があるため、今後政情、気候、治安が安定、改善すれば、消費は加速度的に良くなる可能性がある。
		百貨店（販売担当）	・4月の進学、就職からゴールデンウィークまでの時期には、それなりの売上増加が見込めるが、有名ブランドとそうでないブランドの間で差が出ると思われる。ブランド専門店での販売や新規導入ブランドの売上は、良くなりそうである。
		スーパー（店長）	・客単価は、今後も前年同月比100%前後で推移する。1品単価の低迷は続くが、これまでの努力もあって買上点数は増加する。
		スーパー（営業担当）	・株価や景気指標が良くなっていることもあり、消費者のマインドは改善してきている。来客数は前年を上回ってきているため、今後はやや良くなる。
		コンビニ（店長）	・4月の統一地方選挙の需要と、大型公共事業の開始に伴う特需によって、今後はやや良くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・各数値はこの3か月間で順調に伸びており、ブランド戦略は軌道に乗っている。また、今年の戦略も明確になっており、今後も引き続き良くなる。
コンビニ（エリア担当）	・たばこ販売の回復により、売上全体の増加も当面継続する。		
コンビニ（商品開発担当）	・たばこ販売の回復が続くことと、前年同期の売上が低温のために落ち込んだことの反動で、今後も急回復は望めないものの、やや良くなる。		
衣料品専門店（販売企画担当）	・仕入れ先では生産量が増えている様子であり、今後はやや良くなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		家電量販店（店員）	・アナログ放送の終了に向けて、今後は家庭の2、3台目のテレビの買い換えが進む。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車の投入により、市場は活性化する。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・製造業の景気が回復している。これまでの長期間、新商品の開発が控えられていたため、開発資金も豊富にあり、新商品の提案が増えている。新商品に対する客の反応は良く、生産が間に合わない商品も出ている。
		観光型ホテル（販売担当）	・期末や新年度の歓送迎会を順調に受注しており、企業は今年には催事等を催行するようである。
		住宅販売会社（従業員）	・補助金制度の活用により、改築の受注量が増えている。ただし、新築の受注量は増えていない。住宅版エコポイント制度の活用はほとんどないが、これまで建て替えを検討してきた客が、そろそろ購入しようとする動きが出てきている。
		商店街（代表者）	・客の様子から、今以上の来客数の伸びは期待できない。必要最低限の商品しか購入しない状況は、今後も続く。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・外食が増える兆しがないため、飲食店からの需要は今後も変わらない。
		一般小売店〔惣菜〕（店長）	・百貨店の客は比較的高所得の人が多いが、その様子を見る限りでは、極端な節約志向は感じられない。しかし、年配客が多いため、先行き不安がある。
		百貨店（売場主任）	・節約疲れによる一時的な売上の伸びはあるものの、全体的には購買意欲はまだまだ低く、今後も変わらない。
		百貨店（企画担当）	・ここ数か月間売上は前年同月を上回っているが、1、2月はなんとか前年をクリアしているという状況にある。今後もしばらくは、この状況が続く。
		百貨店（経理担当）	・やや良くなる兆しもあるが、宝飾品、美術品等の高額商品はまだ不調であるため、今後も大きくは変わらない。
		百貨店（店長）	・衣料品の販売回復は、今後も見込めない。
		百貨店（販売担当）	・単価が低下しており、売上の増加には至っていないため、今後も変わらない。
		スーパー（経営者）	・季節は良くなるが、関係各社の取引状況は良くなっておらず、今後も現状維持が続く。
		スーパー（店長）	・小麦を始めとする原材料価格の高騰により、先行きが不安である。
		スーパー（店長）	・今月上旬に他社が新規出店し、商圈内の各店舗では安売りが増えている。客も安い商品を買回りしている様子であり、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（店員）	・中東情勢の不安定化に伴い、原油価格が先行き不透明である。売手、買手共に、今後何が値上げになるかと神経質になっている。今後の景気は、原油価格の動き次第である。
		スーパー（販売促進担当）	・現状では各数値が微増で推移しており、ばらつきもあるため、良くなってはいない。今後は、他社による大型店の出店や改装が控えており、楽観できない。
		コンビニ（エリア担当）	・客の消費意欲の高まりは感じられるが、他業種を含めて競争が激化している。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこの値上がりの影響で、客単価は良い時期に戻りつつある。しかし、これは景気回復とは言えず、今後も現状維持が続く。
		コンビニ（店長）	・来客数に変化がない。特に週の前半は人通りが少なく、夜の来客数も減少している。今後もこの状態が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・電話やダイレクトメールで客に対して販売促進しているが、反応は非常に薄く、今後も変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・4月から自賠責保険料が値上がりするのを受けて、4月以降の自動車購入を検討していた人が前倒しを検討する例が散見されるが、目標を大幅に上回ることはできない。工場入庫数が安定してきていることは良い材料であるが、単価は下がってきているため、前年並みを確保するのがやっとなのである。今後もこのような状況で推移する。
		乗用車販売店（従業員）	・今春以降は新型車の投入が予定されており、客の関心を引き市場が少しでも活性化したらと思うが、「今は自動車購入どころではない。今乗っている車の調子がおかしくなったら購入を検討する」と話す客が多い。
		住関連専門店（営業担当）	・戸建住宅は持ち直してきているが、賃貸住宅や新築ビル工事は減少している。公共事業も先が見込めず、今後も現状が続く。
		高級レストラン（スタッフ）	・客は値引き、割引には反応してくるが、それ以外の仕掛けに対する反応は弱い。客の行動は引き続き慎重である。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数に変化は見られない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（支配人）	・現在は少しでも稼働率を上げることで精一杯であり、売上は安定していない。加えて、今後は光熱費、食材費等の仕入価格の高騰が懸念材料である。
		都市型ホテル（経理担当）	・ガソリン等の価格が上昇する可能性があり、今後の影響が懸念される。
		旅行代理店（従業員）	・今年も給料のベースアップが見込まれないため、景気が非常に良くなるとは思えない。ただし、定年旅行の予約数の増加により、やや上向く兆候も見られる。
		タクシー運転手	・食料品価格の高騰や政情不安から、財布のひもはより一層固くなり、タクシー利用客は引き続き減少する。
		テーマパーク（職員）	・物価上昇につながる情報が多く、景気は良くなりそうにない。
		設計事務所（職員）	・リーマンショック以前の水準には戻っていないが、世間は現在の景気に慣れてきている。しかし、建築業界はまだ厳しい状態にある。建築法規が日々変化し、パソコンを使えない高齢の建築士は、能力があっても対応できない状況にある。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街への来客数は目に見えて減っており、買物袋を下げている人もあまり見掛けない。また、客単価が急激に落ち込んでいる。今後も数か月間は、この傾向が続く。
		商店街（代表者）	・年度末を過ぎると動きがなくなり、景気は悪化していく。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・明るい要素は見当たらない。新年度が始まるまでは、低い水準で推移する。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・商店街から撤退する店や家賃の値下げ交渉を始める店は、ここ数年は見られなかったが、このところ増加している。来客数も売上も良くない状況が続いており、デフレ傾向も続いている。それに加えて、今後は原材料価格の高騰により、経営が厳しくなることは目に見えている。景気は急激に悪化すると思われ、不安である。
		百貨店（経営企画担当）	・原材料やガソリン等の価格上昇により、消費者マインドは悪化する。
		百貨店（販売担当）	・3、4月は食品、ガソリン等の生活必需品の価格が上昇する様子であるため、客の財布のひもは固くなりそうである。特に宝飾品は厳しくなる。
		コンビニ（店長）	・来客数や売上単価など、どの数字を見ても良くなる材料は見当たらない。
		コンビニ（店長）	・ソフトドリンクの売上が減少している。特売中の商品は売れるが、定価販売の商品は売れないため、平均単価が低下している。このような状況は、今後も続く。
		家電量販店（店員）	・このところしばらくは回復傾向が見られたが、最近では中東の政情不安や国内政治の混迷により、先行き不安になっている。
		観光型ホテル（経営者）	・3か月先の予約状況を見ると、前年同月を下回っている。昼食客数の落ち込みは特に顕著であり、前年同月比65%の月もある。その他の数字は、好調な月もあれば悪い月もあるという状況であり、景気が回復する兆しはまだ見えない。
		都市型ホテル（経営者）	・今後の景気動向について、上向くと話す客もいるが逆の客もあり、全体的にはまだ不安定、不透明な要素が多い。
		都市型ホテル（営業担当）	・これまでは、エコカー補助金の終了に伴う影響も小さく推移してきた。しかし今後は、中東の不安定化等に伴う石油や食品等の価格高騰によって、厳しくなる。
		テーマパーク（経営企画担当）	・物価の上昇や政治の不安定により、今後は厳しくなる。
		観光名所（案内係）	・食料品や原料の価格上昇が家計を更に圧迫することは、目に見えている。景気が良くなる見込みはなく、不安である。
		パチンコ店（経営者）	・単価の切り下げ競争になっており、今後は厳しくなる。
		設計事務所（経営者）	・この半年間、個人住宅には全く動きがなく、企業案件も規模が小さい仕事ばかりである。また、案件が実施設計の段階まで進むかどうか、不安なことも多い。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・新年度物件の見積が、ほとんどない。
		その他住宅〔住宅管理〕（従業員）	・子ども手当がどうなるのかという不安から、子育て世帯の買い控えや検討控えが目立っている。
	悪くなる	商店街（代表者）	・不安定な政局、中東の不安定化に伴う原油価格の上昇、国際的な食料品価格の高騰などにより、企業の投資や家計の消費は更に停滞する。
		一般小売店〔電気屋〕（経営者）	・家電エコポイント制度の終了により、特に液晶テレビの売上が前年を下回るのは確実である。全体の売上も減少する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	・貴金属を購入できる客、できない客がはっきりしている。購入できる客でさえ、予算が減少し始めている。消費者の購買意欲は、まだまだ見られない。
		一般レストラン（経営者）	・様々な業種の客がいるが、どの客も景気が良くなる兆しはないと話している。
		理美容室（経営者）	・客からは「仕事は増えてきたが、給料に反映されない」という話を聞いている。このままでは、景気は良くなるらない。
企業動向関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・受注量、販売量共に、3～5%の伸びが見込まれる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・前年8月以降5か月間にわたり、住宅着工件数は7万戸を上回り、年間ベースでは前年比3%増の約8万1千戸となる見通しである。窯業界は住宅需要の影響が大きいので、今後はやや良くなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新製品の発売を控えているため、今後は良くなる見込みである。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・設備投資が増加し始めており、外注業者との取引も増加している。今後はやや良くなる。
		建設業（経営者）	・中東の政情不安が懸念されるが、全体としては景気は回復に向かっている。
		輸送業（エリア担当）	・同業他社の状態が非常に悪いため、荷物が流れてきている面もあるが、全体量も多くなっていると思われる。
	変わらない	化学工業（企画担当）	・中東、北アフリカでの政情悪化に伴う原油価格の高騰や、食料、原材料の価格高騰など、不安材料が出てきている。しかし、このところの堅調さを変化させるような影響はない。
		化学工業（人事担当）	・少し前までは今後は次第に良くなると判断していたが、このところの中東、北アフリカの政情悪化により、先行きは少し不透明になってきている。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・受注数量はまだ増加傾向にあり、今後もしばらくは好調が続くようである。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・引き合い量は増えているが、価格競争が厳しい。円高もあり、利益はほとんど出ない状態が今後も続く。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・新年度に入り、新規案件が出ると思われるが、大きな変動は見込めない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・中東、北アフリカの政情不安や欧州の金融不安など、不確定要素が多い。今の状態がいつまで続くか、わからない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・中国市場に激変がなければ、国内市場、欧米市場共に、非常にゆっくりとした回復基調は変わらない。
		建設業（営業担当）	・現状では薄利多売や多少のリスクを覚悟しての営業などで努力しているが、今後受注が増加するかどうかは分からない。
		輸送業（エリア担当）	・貨物の動きは活発化しているが、原油価格の高騰が輸送費用を増やし、水を差す。
		輸送業（エリア担当）	・セメントの小型運搬等は動き出しているが、その他には目に見えて良くなる情報は聞こえてこない。
		輸送業（エリア担当）	・年度末に向けての、販売拡大の動きがない。そのため、今後景気が上向くことは考えられない。
		金融業（法人営業担当）	・今後、生産は増加すると見込んでいる。ただし、米国の金融緩和による資金流入と中東、北アフリカ情勢の混迷を背景として原油価格が高騰しており、原材料価格の高騰と共に、企業収益を悪化させる懸念が高まっている。
		金融業（企画担当）	・自動車業界を中心に売上、利益の回復が見られるが、給与等の回復は見られておらず、個人消費が回復する見込みは小さい。個人消費の回復が見られない限り、景気は良くなっていかない。
		広告代理店（制作担当）	・新年度に入っても、広告数量や価格を抑えられることはわかっている。良くはならない。
		会計事務所（職員）	・生活用品、食料品などで、割安商品が出回っている。そのため、販売業者、生産業者は今後も薄利を強いられ、業績の改善は難しい。
		会計事務所（社会保険労務士）	・顧問先企業では、仕事量は少しずつ増えてきているようである。しかし、利益に繋がる仕事は少なく、とりあえず仕事を受けているという状態が続いている。
		その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	・現時点では、動きは感じられない。引き合い件数は少なく、受注した案件も少量で短期の仕事ばかりである。
	やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・小麦粉、砂糖、原油を始めとした原材料価格の高騰によって、今後は商品価格への転嫁が始まる。それによって、販売量は減少する。価格転嫁できない場合は、企業収益の悪化が予想される。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・自動車製造業関連は、現地生産を拡大させ、国内生産は減少傾向にある。そのため、梱包資材の需要も伸びない。		
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・取引先企業の中には、4月以降の広告予算を減額させる動きがある。30～50%の予算削減をする企業が多い様子である。		
		印刷業（営業担当）	・3か月先の景気が良くなる材料は、全く見られない。依然として底が見えない状況にある。今後も更に悪化するのではないかと不安である。		
		化学工業（総務担当）	・原油価格の上昇が見込まれるため、今後は厳しくなる。		
		金属製品製造業（従業員）	・今後も販売価格が回復するとは思えない。その一方で、鉄鋼関係の値上がり、この先のコスト上昇要因になるのではないかと心配である。		
		電気機械器具製造業（経営者）	・4月から原材料価格が相当に値上がりするが、販売価格に転嫁できるか不安である。また、輸出商品は円高の影響も受ける。以上により、若干悪くなる見込みである。		
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・新年度上期の完成車メーカーの生産台数は、減少する見込みである。原油高の影響もあり、厳しい状況になる。		
		輸送業（経営者）	・今後はトラックの燃料である軽油価格の高騰が見込まれる。しかし、運賃の値上げ交渉どころか、更なる値下げ要求が続きそうである。		
		輸送業（従業員）	・中東の政情不安が続くと原油価格の高騰が長期化し、石油製品も値上がりし、景気は停滞する。輸入食品や原材料の高騰が、更に景気を悪化させる懸念もある。		
		不動産業（管理担当）	・原油価格の高騰が続けば、不動産市場では価格が下落することが見込まれる。		
公認会計士	・円高が変わらないことに加えて、政策、株価、金利や欧米経済の先行きも不透明である。				
悪くなる		鉄鋼業（経営者）	・今後は原材料価格の高騰もあり、客の購買意欲は低下する。また、製造業の海外移転が進んでしまっており、国内需要が増える要素はない。		
		金属製品製造業（経営者）	・年度末以降の引き合い件数が減少している。		
雇用 関連	良くなる やや良くなる	—	—		
		人材派遣会社（経営企画）	・取引先企業からの技術者派遣需要は、今後も徐々に増え続ける。		
		人材派遣会社（社員）	・派遣社員を直雇用する動きや正社員を採用する動きが活発化しており、今後はやや良くなる。		
		人材派遣会社（支店長）	・派遣社員から業務委託へと移行する動きが活発化しているが、派遣業界も業務委託へとシフトするため、業績は回復する見込みである。		
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・地元の基幹産業である製造業が回復し始めており、今後は間接的に波及することが見込まれる。		
		職業安定所（所長）	・企業の求人意欲はやや高まってきており、求人数の増加傾向は今後も続く。求職者数は、引き続き微減で推移する見込みである。		
		職業安定所（職員）	・正社員の求人数は、前年同月比で増加傾向が続いている。雇用にはやや勢いが出てきている。		
		職業安定所（職員）	・前年秋以降、求職者数は減少傾向にあり、求人数は増加傾向にある。全体として良い傾向にあり、今後もやや良くなる。		
		職業安定所（職員）	・大企業の求人数は増加していないが、従業員数100名以下の企業の求人数は、ここ数か月間徐々に増えている。雇用は相当な回復傾向にある。		
		職業安定所（職員）	・今後、原油高等による影響がなければ、求人数の増加傾向はもうしばらく続く。徐々にではあるが、良くなる方向に向かう。		
		民間職業紹介機関（支社長）	・今までの求人数の推移を見ると、景気は上昇局面に入っている。東海地域の企業に今後の採用見込みを聞いても、増やすとの回答が多い。		
		民間職業紹介機関（営業担当）	・企業の人員削減は一段落しており、今後は社員の退職に伴う採用案件が徐々に増えてくる。		
		変わらない		人材派遣会社（経営者）	・求人動きは、ほとんどない。企業の話では、賃下げ、ボーナスカット、退職勧奨が依然として発生しており、この状況は今後も続く。
				人材派遣会社（営業担当）	・新年度の見通しは、まだ立っていない。
人材派遣会社（営業担当）	・採用者数に大きな変化はないため、今後も変わらない。				
アウトソーシング企業（エリア担当）	・大きな動きは見られず、今後も変わらない。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕(営業担当)	・年度末から新年度にかけて、求人数が増える兆しは感じられない。
		新聞社〔求人広告〕(営業担当)	・先行き不透明であるため、求人予算は増える傾向にない。特に中小企業では、先行きに不安を抱えている。また、製造業は海外に生産拠点を移すなどしており、当地域の景気回復は見込めない状況にある。
		職業安定所(職員)	・全体として求人数は増加傾向にあるが、業種によっては厳しい状況にある。事業所の縮小や閉鎖する企業の情報も入ってきている。
		職業安定所(職員)	・世界情勢や経済の先行き不安から、企業は雇用を増やせる見通しが立っていない。企業は手探り状態のなかで、設備投資、雇用や経費の節減を行っている状況にあり、今後改善するとは考えにくい。
		学校〔大学〕(就職担当)	・一部の企業には採用を増やす動きが見られるが、全体的には確実な動きはなく、雇用面での明るさはまだ感じられない。
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—

## 6. 北陸(地域別調査機関：(財)北陸経済研究所)

(—：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	—	—	
	やや良くなる	百貨店(売場主任)	・まだ一部の購買層だけではあるが、高額商材に関しては着実に金額単価の上昇が見られる。また、住宅関連、生活関連の商材に単価上昇傾向が出始めている。	
		百貨店(営業担当)	・全般的にはかなり消費が活性化してきた。ただ、ファッションを中心としたトレンドといわれる商品の供給量は、メーカー側はかなり抑えているのが実態である。前年比で60～70%程度だろうと思われ、危惧するところである。	
		百貨店(営業担当)	・婦人ファッションに関しては、今年は明確にトレンドが見えており、前年実績を超えることが予測される。また、客の買物の仕方を見ても復調の兆しが見られるので、春物初夏物ファッションについても、前年実績をクリアできるとみている。	
		コンビニ(店長)	・季節変動を考慮に入れても、3～4月に向け客の財布のひもも緩んでくる。例年どおり弁当や飲料の売上が戻ってくれば、たばこの買上単価が増加している現状を維持していく限り、全体的な売上は増加する。	
		観光型旅館(スタッフ)	・予約保有は、2月は前年比81%、3月は同94%、4月は同161%、5月は同100%となり、予約状況は回復傾向となっている。	
		旅行代理店(従業員)	・受注できるか否かではなく、案件全てが実施されるようになれば、需要に力強さが見えてくる。需要回復がさらに実感できるかどうかは、この先3か月の案件の精度にかかってくると予想される。	
		タクシー運転手	・新年度に入り何かと外出する機会も増加し、また、歓送迎会などもあり、夜は繁華街への人出は増えるのではないかと思われる。	
		通信会社(営業担当)	・スマートフォン需要が高まっており、新商品発売に合わせた混雑が予想される。	
		競輪場(職員)	・今月の入場者数減少及び売上減少の要因として、降雪の影響及び翌月のビックレースに備えた買い控えが想定される。	
		その他レジャー施設(職員)	・雪解け時期となり、年間で一番客が動くシーズンであるが、期待も込めて景気が良くなると予想する。	
		住宅販売会社(従業員)	・長期金利の上昇傾向が顕著になっており、客自身が焦り出している。また、ハウスメーカーも金利上昇で客をあおっており、当面は契約件数は増えそうである。	
		住宅販売会社(従業員)	・展示場の来場客数がわずかではあるが徐々に増えている傾向にあるため、受注につながる。	
		変わらない	商店街(代表者)	・中心商店街と駅前との商圏の争奪が激しくなっている。中心商店街には有名セレクトショップの出店が相次いでおり、今後も期待ができそうである。感度の高いファッションをマーケットが要求している。一方、駅前の方は大衆層の全国ブランドファッションが集積している。
			商店街(代表者)	・Webでの購買意欲増加傾向が強い。
商店街(代表者)	・これといった新商品や売れ筋商品もなく、また流行もなさそうだ。消費を刺激するような要素が今のところ見つからない。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔鮮魚〕 (従業員)	・今のところ景気が上向きな気配は感じられない。取引先も同じ思いでいるところが多い。
		一般小売店〔事務用品〕 (営業担当)	・年度末には国の出先機関をはじめ県市町村の予算執行が終了し、新年度からの新しい仕事を探す必要がある。今後は、営業方法を一変し、予算執行に関係のない客の困りごとに対応するような、解決型営業に変化しようとしている。購買を創出する必要性に迫られている。
		百貨店(売場担当)	・来客数、客単価ともに前年並みに推移している。婦人服を中心に春物は好調と聞いているが、急激な変化は望めない。
		スーパー(店長)	・現状から変わる要素はない。依然として必要以上に物を買わない客の消費態度に変化は見られない。懸念されるのは、世界的な異常気象の影響による農作物などの値上がりによる買い控えである。
		スーパー(店長)	・景気を刺激する要因が不明な現状では、生活防衛型動向は変わらない。子ども手当や減税・エコポイントなどが大きな課題・要因となろう。
		スーパー(店長)	・来客数、売上が伸び悩んでいることもあり今後も景気が良くなるとは思えない。
		スーパー(店長)	・景気は良くなって欲しいが、競合環境が今後さらに厳しくなってくる点を大変危惧している。ただ、全国的に求人数の改善傾向がうかがえるなどの点で景気の上向き傾向を若干ではあるが感じている。ただ、この地域の景況感、まだ変わらない。
		スーパー(総務担当)	・今後食料品の値上げも予想されるが、現在の客の様子を見ていると、値上げに伴う買い控えの影響は少ない。
		コンビニ(経営者)	・客単価に関しては、たばこを除けば、下落傾向にある。チルド弁当など新商品を投入して全体的な押し上げを図っている。先行きに関してはまだまだ不透明である。
		コンビニ(経営者)	・現在の前年比の推移を見れば良くなるかもしれないという期待はあるが、冷静に見ると前々年の売上までには達してない。そのためまだまだの水準であることには変わらない。
		コンビニ(店舗管理)	・高付加価値商品への反応が相変わらず鈍い。一方、価格訴求商品は好調である。節約志向に変化が感じられない。
		衣料品専門店(経営者)	・先行き期待はしたいが、寒い日が続くと客足が止まり、春物の動きが鈍くなるのが心配される。
		衣料品専門店(経営者)	・2月は販売数量が非常に悪かったなか、隣県からの来店の割合が高かったことも事実である。また、ここ2、3日来店を予約する電話が多くなってきた。
		衣料品専門店(総括)	・低単価の商品に飽きて、普通の価格以上の商品を求める客も見られるようになってきたが、まだまだ節約ムードが高い。
		家電量販店(経営者)	・4月以降の家電エコポイント終了に伴う落ち込みが懸念される。
		乗用車販売店(経営者)	・引き合いが受注までつながらず、延期や中止になることが多くなった。迷っている原因が従来の予算ではなく、電気自動車やハイブリッド車への端境期でのちゅうちょではないかと思われる。
		自動車備品販売店(従業員)	・地上デジタル放送移行での特需期待もあるが、カーオーディオとカーナビゲーションシステム、液晶ディスプレイが一体化となっているAVNタイプのナビゲーション単価の低下により、全体的な伸び率は期待できない。
		住関連専門店(店長)	・変化しそうなことがあまり感じられず、変わらないのではと考える。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(経営者)	・北アフリカに始まる中東諸国、中国の先行きに懸念はあるものの、今のところ客の中には、影響がないようにみられる。
		その他専門店〔酒〕(経営者)	・どこを見ても景気が良くなるような兆候が見られない。景気の底をはいずり回っているようで、耐え忍んで暮らしていくしかない。
		その他専門店〔医薬品〕(営業担当)	・デフレマインドで商品の割安感が出ているなかで、原料値上げの兆しがみられ、ここ2～3か月先は、この値上げがどう影響するのか見当がつきにくい。
		高級レストラン(スタッフ)	・3年後の北陸新幹線開通に向け、首都圏から様々な業態の新規参入が目立ち始めている。一つ出店するとライバル社が出て来る。さらに、開通後は小さな営業支店は閉鎖される見込みが強く、接待需要の減少が更に進む恐れがある。
		スナック(経営者)	・良い方向への気配も感じられるが、特殊要因である統一地方選挙もあり、このままの状態が続く。
		観光型旅館(経営者)	・3月以降も予約客数は増加しているが、消費単価がどうなるか心配である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストラン利用客数、宴会場利用件数の回復感がつかめず、低迷が続きそうである。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は今一歩である。	
		タクシー運転手	・タクシー利用は必要最小限と客は考えているようである。	
		通信会社（社員）	・スマートフォンへの関心が高まっているが、既存ユーザーの買換えが大半であり、新規拡大には結びついていない。売上拡大があまり期待できない。	
		通信会社（営業担当）	・相変わらずスマートフォン型の販売量は大幅に伸びているが、従来型携帯電話の販売量が減少しており、全体的に大きな動きがみられない。	
		通信会社（役員）	・ケーブルテレビ・アナログ契約からデジタル契約への切替も最終段階にあり、当面現在の勢いが継続すると予想している。	
		美容室（経営者）	・短期間で景気が良くなる雰囲気ではない。	
		住宅販売会社（経営者）	・見込み客数、動向は今後も変わらない。	
		住宅販売会社（従業員）	・受注はある程度見込めるものの、資材の高値が利益面で圧迫要因となっている。	
		住宅販売会社（従業員）	・企業の収支は改善しているが、個人所得の改善が見られない。	
		やや悪くなる		一般小売店〔書籍〕（従業員）
衣料品専門店（経営者）	・食料、原油、原材料の値上がりが懸念される。			
乗用車販売店（経営者）	・春の需要期が終わると購買意欲が低下する状況がある。先行きに対する不安感を口にする客が多く、販売の伸びは期待できない。			
一般レストラン（スタッフ）	・中東問題で上がり続けるガソリン、小麦・サラダ油などの値上げが経営にも家計にも負担となる。ガソリンが今後も高くなることから、エコカーへの買換え、自然冷媒ヒートポンプ給湯機の話聞くようになった。また節約に関心が向いている。			
旅行代理店（従業員）	・ニュージーランドの地震や中東の騒乱状況から当面海外旅行は自粛傾向であろう。海外から日本へは期待できるが小規模業者にはビジネスチャンスがない。			
通信会社（職員）	・中東情勢不安・政局不安・アジア諸国の台頭など不安材料が多く、客の消費意欲はより低下するという見方が地元において大勢を占めている。			
テーマパーク（職員）	・3月の卒業旅行、春休みの動きは鈍い。全体的にはやや回復の兆しがあるものの、4月には統一地方選挙が予定されており、特殊事情を加味すると、現在より悪くなるものと考えられる。			
悪くなる	家電量販店（店長）	・家電エコポイント終了後の4月以降は明らかに販売量は落ちる。		
企業動向関連	良くなる	—	—	
		やや良くなる	電気機械器具製造業（経理担当）	・4月以降は在庫調整も若干緩み、生産は回復するであろう。そのほかは増えることはないが、スマートフォン関係はかなり増産の注文が来ているので期待している。
		精密機械器具製造業（経営者）	・前年より開発を進めてきた新商品の評価が国内、海外とも良く、ここしばらくは当初の計画に対し、さらに上方修正した生産体制を敷く必要が出ている。	
		通信業（営業担当）	・今年度の電話系の設備投資を実施した県内の業種を集計したところ、建設・建築、製造、卸売・小売と続いており、景気のベースとなる業種の回復感が出てきたように思える。	
		不動産業（経営者）	・2～3か月すれば商談が成立するような明るい話が少しずつ聞かれるようになっていく。	
		税理士（所長）	・為替、政策が落ち着いているが、この先総選挙や、政治が揺れ動くことがあれば、かえって経済に悪影響を及ぼすことが心配である。現在のところ、企業も予定した計画に沿って事業を進めているが、将来に不安が起きると大手企業を中心に計画の見直しが行われるのでこれが一番心配である。	
		変わらない		食料品製造業（企画担当）
繊維工業（経営者）	・原燃料の値上がりが足かせとなり、取引先が発注を控えることが懸念される。			
繊維工業（経営者）	・原料高や円高傾向が全体的に強く市場の状況は悪い。このため消費に相当の影響を与えている。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・住宅向け資材は3か月、6か月では良くなる動きが見えない。3年、5年かかるとみている。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の入り具合は、現状と変化がない。
		金融業（融資担当）	・引き続き本格的な回復が定着するかどうかは、様子見が必要である。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・ここ2～3か月の前年同月売上高を維持できている状況が、もうしばらく続きそうである。
		司法書士	・不動産登記、商業登記全体の事件数は増えていない。
	やや悪くなる	一般機械器具製造業（総務担当）	・世界情勢の不安から景気の見通しが不安定である。これにより設備投資意欲も模様眺めとなり、延期や中止といった可能性も現実味を帯びてきた。
		輸送業（配車担当）	・今後、家電エコポイント、住宅版エコポイントなどの措置が終わり、終了後の需要が極端に落ち込み、今後ますます悪くなると思われる。
		輸送業（配車担当）	・高止まりしている軽油価格にさらに上昇する気配がみられ、燃料費の上昇分を運賃に転嫁できそうにもない。
	悪くなる	建設業（経営者）	・新年度は、公共工事がこれまで以上に減少することが分かっているため、今のうちに受注しようと応札した物件が、基準価格を下回って失格したり、2番札に甘んじたりと軒並み受注に失敗している。このまま際限なき価格競争が続けば、地方における建設業者の大量倒産が、大きな社会問題になるであろう。
		建設業（総務担当）	・大手業者が従来相手にしていなかった小型工事にも積極的に参入しており、今までの業者間のすみ分けが崩れ、ますます受注競争の激化が予想される。
雇用 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・徐々にではあるが、技術者系を中心に人材不足感がでてくる。
		職業安定所（職員）	・有効求職者数は減少傾向にあり、一方、就職者数は増加傾向にある。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・景気が良くならないと派遣求人の方は出てこない。早期回復に期待するのみである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・良くなる要因も悪くなる要因も見当たらない。
		職業安定所（職員）	・中小企業における休業計画届の提出件数は横ばい状態が続いている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・介護関連以外は、採用はまだ手控えられている感がある。
	やや悪くなる	○	○
悪くなる	—	—	

## 7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（—：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	商店街（代表者）	・大手スーパーの出店で新規の客が増えている。大手スーパーの折込広告が週末と決まっているため、商店街全体で2、3月は毎週末にイベントを行う。客の間で週末に買物に来るとお買得という意識が高まるため、更なる新規客の獲得につながる。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・プロ野球が開幕して公式戦が行われるほか、アニメキャラクターのイベントも開催されるため、来場者数が増える。
	やや良くなる	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・引き続き安価な商品が売れ筋であることに変わりはないものの、季節が良くなるにつれて客足も戻る。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・少なくともこれ以上は悪くならない。
		百貨店（売場主任）	・食品やエネルギー分野での値上げは気になるものの、客の間では一時よりも価格に対する関心が薄れている。客はファッションそのものを楽しもうとしているため、客単価は上昇傾向が続く。
		百貨店（売場主任）	・当地区で大型商業施設の開店や改装があり、販促活動も強化されるため、客の消費意欲が高まる。
		百貨店（売場主任）	・大手の取引先では、不採算店舗の整理や不良在庫の整理を進めた結果、今年は攻めに転じる姿勢が目立つ。販促や商品開発、販売員といった売上に結びつく部分で協力が得られれば、大幅な好転は難しいものの、先行きはやや良くなる。
		百貨店（企画担当）	・今春には店舗の工事が終わり、新たなテナントも入るため、客の購買意欲が高まる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・3月のリニューアルオープンに向けて多くのイベントが企画されているほか、春夏物が本格的に出そろうため、売上はかなり伸びる。
		百貨店（商品担当）	・生活必需品でない商品の売上が一度上向き始めると、株価の急落といった大きな経済的要因がない限り、上向き傾向が続く。
		百貨店（店長）	・今月の上旬は良かったが、中旬に落ち込んだ後、下旬に再び回復した。天候に左右されるなど安定感はないものの、右肩上がりになりつつあるため、先行きはやや良くなる。
		スーパー（店長）	・家電エコポイント制度の縮小による家電売上への影響は大きく、売上全体としては今後も苦戦が続くものの、油や小麦粉、コーヒーといった値上げ商品の売行きは非常に良くなっており、先行きに期待が持てる。消費者の生活防衛姿勢が強まっており、特売時は今までとは比較にならないスピードで売れている。
		コンビニ（店長）	・最近ではデザート類の販売が安定しているため、今後は気温の上昇に伴って更に伸びる。
		コンビニ（店長）	・来客数が回復傾向にあるほか、客単価も下げ止まりつつあり、今後は上昇に転じる。
		コンビニ（広告担当）	・今後はやや良くなるか、ほぼ横ばいで推移する。各種食品の値上げや公共料金の上昇で客の財布のひもは固くなるため、自助努力で売上を伸ばさなければならない。
		コンビニ（店員）	・店舗がきれいになったことで、若い主婦層の来店が増えるほか、周辺に大きなスーパーもないため、車に乗れない高齢者層の利用も増える。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・これから徐々に気温が上がるにつれて、花粉の飛散量が増えてくる。特に今年は量が多いため、マスクや目薬といった花粉関連の商品の動きが良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・ほんの少しずつではあるが、周囲からは時間と予算に余裕が出てきたという声が出始めている。時間は掛かるものの、景気の回復は徐々に進んでくる。
		一般レストラン（店員）	・最近では客の反応も非常に良いため、先行きはやや良くなる。
		スナック（経営者）	・今月は最悪であったが、3月は昼の客も含めて3組の団体客の予約などが入っている。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・来客数が増え、売上も伸びてきているため、先行きは良くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・単価は低下傾向にあるものの、婚礼、宿泊、宴会共に前年を上回る予約率となっており、先行きの見通しはやや良い。レストランでも家族連れ客による土日の来店が増えている。
		都市型ホテル（総務担当）	・当地区の百貨店の新築、増床が出そろうほか、新幹線の開通による集客効果にも期待できる。ただし、これから関西全般で賃金が上昇するといった情報もあるが、米国の大型金融機関の破たん前に比べると低迷していることに変わりなく、消費が回復するまでには至らない。
		通信会社（経営者）	・今年度は年度末にかけて携帯電話各社が販売促進を図るため、市場が盛り上がる。
		テーマパーク（職員）	・3か月先には施設のリニューアル工事も大体は終わるため、新施設の目新しさもあり来客数が増える。
		住宅販売会社（経営者）	・周囲からは景気が少し回復しつつあるとの声がかかれるため、先行きはやや良くなる。今後は販売価格を見直すほか、商品の魅力を改めて高めていく。
		住宅販売会社（経営者）	・東京の都心では既に地価の底打ちがみられるため、最低でも地価の下落にはストップが掛かる。
		住宅販売会社（総務担当）	・贈与税、相続税に関する税制改正を見越した動きが出てくる。
変わらない		商店街（代表者）	・人出のパターンが定着しつつあり、にぎわうのは一瞬で、客足が引くのは早い。しばらくはこのパターンが続く。
		商店街（代表者）	・良くなる要素もないが、景気が悪くなる話も聞かれない。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・同じメーカーの同じような製品が、ディスカウントストアやアウトレット、インターネットで安く買えるという話を客から度々聞く。仕入価格を考えると不可能なはずであるが、そういった客も相手にしなければならないため、今後売上が大きく伸びることはない。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・上向き要素が全くない。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・原油価格の高騰や食料品価格の値上がりで厳しい環境にあるほか、競争もますます激しくなる。価格、品質、サービスのすべてで客を満足させなければ、市場から淘汰されてしまう。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔衣服〕 (経営者)	・ 零細企業の多い当地域では、消費者の元気な声が久しく聞かれない。政治や景気への不安が大きく、購入したくてもできないのが現実であるため、今後も厳しい状況が続く。景気回復の明るい声が報じられているが、それが隔々にまで行き渡っているとはとてもいえない。
		一般小売店〔コーヒー〕 (営業担当)	・ し好品の販売が中心であり、大手数社が値上げの意向を公表しているため、今後は買い控えなどの悪影響が大きくなる。
		百貨店 (売場主任)	・ 春物の実需品は動いているが、輸入ブランドなどの高額品の動きは良くなる。梅田地区に大型商業施設がオープンするため、消費者の動きも分散する。
		百貨店 (サービス担当)	・ 来月からは百貨店や新たな商業施設が次々とオープンするため、様々な対策による顧客の確保が急務となる。
		百貨店 (売場担当)	・ 今後は不安定な中東情勢による原油価格の上昇や、小麦粉、コーヒーといった食品価格の上昇が進む。生活必需品の値上げがどの程度進むかによって、ファッション関連の購買意欲も左右されるため、今の状況ではこれ以上良くはならない。
		スーパー (店長)	・ 政治が不安定であるほか、生産基地としてウエイトの高い中国で、賃上げや物価の上昇といった変化が起きつつあるため、今後も厳しい状況となる。
		スーパー (店長)	・ 政治の先行き不透明感が日に日に増しており、小売の動向にも大きく影響している。少子高齢化や過疎化の進む地方が元気になる要素は見当たらない。
		スーパー (店長)	・ 繁盛時と通常時の差が大きくなっているため、来客数が回復しても売上の回復にはつながらない。
		スーパー (店長)	・ 食品関係の店舗はオーバーストアとなっており、若干の景気回復では地域の状況は変わらない。今後は他店との差別化が重要となってくる。
		スーパー (企画担当)	・ 景気が好転する材料はなく、客1人当たりの売上も低いままであるため、今後も現在の状況が続く。
		スーパー (経理担当)	・ 食品の原材料などの値上げ報道が相次ぐなか、小売の現場では値上げが受け入れられる状況ではないため、消耗戦の様相が強まる。
		スーパー (広報担当)	・ 原料、食料価格の高騰で販売価格の上昇が始まるため、消費マインドに悪影響が出る。
		スーパー (販売担当)	・ 客は日替わりの目玉商品には朝から行列を作っても買物をする一方、目的の商品を買うと定価品は買わずに帰る傾向が続いているため、今後も厳しい状況となる。
		スーパー (社員)	・ 前年比ではかなり回復しているものの、あくまで前年に消費が大きく落ち込んだ影響であり、消費自体が活発であるとはいえないため、今後も大きな変化はない。
		スーパー (企画)	・ これ以上悪くなることはないが、原油価格の高騰で食品を中心に値上げが進むため、衣料品、生活用品などでは買い控えが続く。
		コンビニ (経営者)	・ 近隣のオフィスビルの入居率が低いままで、購買人口が回復していない。今後は客単価も低い水準で推移するため、厳しい状況が続く。
		衣料品専門店 (営業・販売担当)	・ 仕入先からの生地供給が遅れているほか、バラエティに富んだ商品も少ない。
		乗用車販売店 (経営者)	・ 新車販売、車検整備の予約が少なく、車の修理も増える気配はない。
		乗用車販売店 (営業担当)	・ まだまだ横ばいの状態が続く感がある。
		乗用車販売店 (営業担当)	・ 決算関連や4、5月の新社会人向けのキャンペーンにより、今月並みの受注は確保できるようになる。今後は底打ちし、緩やかな回復傾向が続く。
		住関連専門店 (店長)	・ 客の購入意欲が高まったとしても、景気回復を実感するまでには至らない。
		住関連専門店 (店員)	・ 新店舗の出店でしか売上を伸ばせないのであれば、いずれ頭打ちとなるのは避けられない。
		その他専門店〔食品〕 (経営者)	・ 例年よりも悪い部分が気になるものの、当分は今の状態で推移していく。
		その他専門店〔宝飾品〕 (販売担当)	・ 宝飾品への購買意欲が高まる要因が見当たらないため、今後も厳しい状況となる。
		高級レストラン (支配人)	・ 前月中旬からの来客数の落ち込みが販売量に影響しており、今月に入っても回復の兆しがみられない。今年はゴールデンウィークに期待しているものの、見通しは不透明である。
		一般レストラン (経営者)	・ 企業業績の回復が報じられているものの、消費にどう波及するかが不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・飲食店の動向は天候に左右されやすいため、今後天候の良い日が増えれば客足も伸びる。
		一般レストラン（スタッフ）	・来客数は増加傾向にあるが、販売単価が下がっている。今後もデフレ状況から抜け出せないため、景気は横ばいか下降気味となる。
		その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・ここ2年は来客数が増えないどころか減っている。状況に大きな変化はないため、今後も厳しい動きとなる。
		観光型ホテル（経営者）	・4月以降は団体参拝関連の団体客が増えるものの、統一地方選挙によるマイナスや政情不安による混乱を考えると、決して楽観はできない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・まだ価格を上げられる状況ではないが、客に動きが出てきている感がある。値下げの動きにも限界があるため、当分はこの状態が続く。
		都市型ホテル（マネージャー）	・統一地方選挙の結果により、個人客の消費マインドや法人客の宴会需要などが大きく影響を受ける。今年のゴールデンウィークは日並びが良いため、レジャー客の動きが活発になるものの、海外旅行に比べて国内旅行に大きな期待はできない。ただし、新幹線の延伸や梅田周辺の商業施設の開業はプラス要因である。
		都市型ホテル（客室担当）	・宿泊部門では、インターネット予約を中心に価格競争が激しくなっており、単価の設定が稼働率を左右する状況となっている。宿泊客が増えても、単価の低下で実収入が減る場合も多く、予断を許さない状態である。原油などのエネルギー価格の上昇による影響も大きいいため、先行きは不透明である。
		旅行代理店（経営者）	・旅行プランでは価格の二極化が進んでおり、低価格のインターネット商品の人気はまだ続く。今後、平日の高速料金の上限が設定されれば、マイカーでの旅行も更に増える。
		旅行代理店（店長）	・今後は燃油サーチャージの上昇が進む。
		旅行代理店（広報担当）	・今年はゴールデンウィークの日並びが良いほか、間際予約を含めた旅行需要も上向きつつある。ただし、ここへきて客の状況が極端に悪化しているため、全体としては大きく変わらない。
		タクシー会社（経営者）	・物価の上昇といった不安要素があるなか、タクシーなどの交通費は一番に節約の対象となる。
		通信会社（企画担当）	・原油価格の上昇が気になるものの、影響はまだ限定的なものにとどまる。
		観光名所（経理担当）	・今月に入って非常に苦戦している。来場者数、客1人当たりの売上共に減少しているため、先行きの見通しは厳しい。
		観光名所（経理担当）	・例年2月は雪の降る日も多いが、今年はかなり好天に恵まれ、土日や祭日の来客数もかなり多かった。現在放映中のドラマの影響で売上、来客数共に大幅増となっており、前年の10月から前年比でプラスが続いている。ただし、これはあくまで今年限りの一過性の動きにとどまる。
		パチンコ店（店員）	・悪くはならないが、良くなることもない。
		競輪場（職員）	・ほかの競輪場の動きをみても、回復の兆しがみられない。
		美容室（経営者）	・春は外出することが増えるため、パーマやカラーのオーダーが増えるものの、来客数が増えるとは限らない。
		その他サービス〔コインランドリー〕（経営者）	・特に集客改善のための広告といった販促の予定もない。やや来客数が落ちてきたため、今後も状況は大きく変わらない。
		その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・景気の先行きが不透明なため、生命保険の加入を検討する客は伸びない。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・レンタル売上が前年を上回りそうな状況であるが、まだ低価格競争が続いているため、今後も厳しい状況が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・特に好転する材料はないものの、企業業績の回復に伴い、購入を控えていた製造業関係の社員の間にも動きが出始めている。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・金融機関の融資姿勢に左右されるものの、現状は景気の改善する要素が見当たらない。一般のサラリーマンを取り巻く環境はまだ厳しい状況である。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・住宅版エコポイントの延長などの追い風はあるものの、住宅展示場への来場者アンケートでは世帯年収が下降気味となっているため、今後も厳しい状況となる。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・消費者による不動産の購入意欲は依然として弱含みであり、本格回復までにはまだ時間が掛かる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街では週休2日の店が増えているほか、閉店する店が増えており、その度に客の購買意欲が低下するため、今後も厳しい状況となる。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔花〕（経営者）	・生活に密着した商品の値上がりが続くため、しばらくは支出が抑えられる。
		百貨店（営業担当）	・梅田地区での百貨店の新規出店や増床などで客が流出し、来客数の減少につながる。ただし、訪問販売では混雑で買いそびれた客からの引き合いが多少は出てくる。
		百貨店（販促担当）	・大阪で商業施設の大規模増床が続くため、当地区での集客にも週末のヤング、キャリア層を中心に悪影響が出る。
		百貨店（婦人服）	・大阪地区での競争が激しくなるほか、原油価格の高騰といった不安定要素もあり、売上の増加要因が見当たらない。
		スーパー（経営者）	・急に競合店がチラシの価格を大きく下げており、一部の店舗では採算を度外視した動きもみられるため、先行きの見通しは厳しい。
		スーパー（管理担当）	・中東の政情不安による原油価格の高騰が懸念されるほか、一部の生鮮品価格の高騰もなかなか解消されないため、先行きの見通しは厳しい。
		衣料品専門店（経営者）	・セールで売れないのであれば、定価品は更に売れない。
		家電量販店（経営者）	・エコポイント制度の終了に伴い、地上デジタル放送対応テレビは販売量がいったん落ち着くため、売上が減少する。
		乗用車販売店（経営者）	・前年の政策効果の反動減による悪影響が徐々に出てくる。
		乗用車販売店（経営者）	・年度末に向けて例年並みの売上となるものの、車を手放すだけで購入しない客が増えているため、先行きは悪化傾向が進む。
		乗用車販売店（経営者）	・中東の政情不安による原油価格の暴騰や国民の政治不信により、消費マインドは低下している。外需の回復で製造業は持ち直しているものの、今後もしばらくは景気が改善する要素はない。
		観光型旅館（経営者）	・景気の不確定要素が多過ぎるため、先行きは厳しい状況となる。
		通信会社（社員）	・地上デジタル放送関連の特需が伸びる余地は小さいため、先行きの見通しは厳しい。最近ほとんど頭打ちの状態にある。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・政治的不安定感や原油価格の高騰など、レジャー消費を促す要因は非常に少ない。
		悪くなる	
衣料品専門店（経営者）	・原材料価格が高騰している。それも生活必需品に直接影響する物が多いため、可処分所得の減少によって個人消費が低迷する。		
家電量販店（店長）	・3月のエコポイント制度終了前の需要で若干は持ち直すものの、4月以降は期待できない。エコポイント制度の対象となる主要商品の買換えはほぼ終わっているため、1品単価が前年以上に伸びることはない。		
タクシー運転手	・景気が上向く要素は依然として見当たらず、政府の頼りなさもあって今後は更に落ち込む。		
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	—	—
		木材木製品製造業（経営者）	・現在の事業があまり伸びることはないものの、二酸化炭素の排出削減に関する新規事業によって、売上、利益の増加につながる。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・新年度に向かって企業の動きが出てくるため、新たな販促の動きが出てくる。新規事業の電子書籍のコンテンツ開発も進んでおり、ニッチ分野での開発を担えば期待が持てるほか、医療業界の情報分野にもまだまだ未開拓の市場が眠っている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・当社には原発関連の顧客が多いが、この分野だけをみると業況は今後も緩やかな改善が続く。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・今まで抑え込まれていた設備投資について、耐久性の点で必要に迫られた更新需要が出てくる。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・国内生産の製品が見直されているため、受注が増えやすくなる。
		建設業（経営者）	・受注残が増えているため、年度末は例年よりも良くなる。地場のデベロッパーによる土地取得意欲も高く、土壌汚染に関する問い合わせも増えているため、今後は受注が増えていく。
		建設業（経営者）	・例年のことであるが、春を待って始まる工事が多い。今年は雪が多かったため、余計にその傾向が強まる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		輸送業（営業担当）	・企業間の荷物は工場、商店共に減っているが、個人間では活発に動いているため、今後も利益は上向きで推移する。	
		広告代理店（営業担当）	・気温が上がって春物商材が動き出せば良くなる。	
		経営コンサルタント	・季節要因もあり、ここ2～3か月はやや上向いてくる。	
		その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	・CMのスポット市況が底を打ち、上昇基調に移った感があるため、先行きはやや良くなる。	
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・受注見込みから判断すると、先行きはやや良くなる。	
	変わらない	食料品製造業（経理担当）	・3月以降も良くなる要素が見当たらない。	
		繊維工業（団体職員）	・綿花価格の高騰による影響が大きいいため、今後は市場での適正な価格転嫁が必要となる。	
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・受注量には変化がないため、今後も現在の状況が続く。	
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・取引先の生産計画について、増産の予定が聞かれない。	
		化学工業（経営者）	・問い合わせや引き合いがあまり増えておらず、競争も激しくなりつつあるため、今後もしばらくは厳しい状況が続く。	
		電気機械器具製造業（営業担当）	・5、6月の受注量が増えていない。	
		建設業（経営者）	・景気が回復した後に建築の企画や設計が始まり、施工はその後であるため、建設業の業況の回復には時間が掛かる。	
		輸送業（営業所長）	・年度末はコピー機器や事務機器の配達が前年を少し上回る予定であるが、4月以降は前年並みの動きとなる。	
		金融業（営業担当）	・今後、中小企業による政府系金融機関からの借入れは難しくなるが、中小企業金融円滑化法に支えられたこの1年間で、企業の体力は逆に弱体化した感がある。金融機関の今後の対応により、企業の資金繰りは大幅に変わってくる。	
		広告代理店（営業担当）	・今の動きは年度末までであり、その先は予測が立たない。	
		司法書士	・前月よりも事件数が少なく、案件もほとんどないなど、良くなる要素が見当たらない。	
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・原料価格が値上がりするほか、個人消費もなかなか伸びず、財布のひもは固いままとなる。	
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・先行きが不透明な状況であり、引き合いもほとんどない。	
		やや悪くなる	食料品製造業（従業員）	・調味料の原材料が値上がりする一方、販売価格が上げられずに苦勞している。価格を上げると販売量が減るような状況であり、先行きの見通しは暗い。
			繊維工業（総務担当）	・原材料価格の値上がりが加速するため、状況は更に悪くなる。
化学工業（管理担当）	・原油、原材料価格の高騰で消費が冷え込むほか、円高による輸出の悪化、政治不安などで経済が混乱する。			
窯業・土石製品製造業（経営者）	・世界情勢の悪化により、先行き不透明感が高まっている。			
金属製品製造業（経営者）	・原材料の値上がりや円高による国際競争力の低下により、製造業は窮地に追い込まれる。			
金属製品製造業（管理担当）	・4月からの公共事業の受注がほとんど決まっていない。			
金属製品製造業（営業担当）	・自動車関連の得意先からは、4月以降の発注の内示が3月よりも15%ほど減っている。			
電気機械器具製造業（企画担当）	・原油価格の高騰で物流コストが上昇するほか、政治不安もあるため、今後は全体的に悪化へ向かう。			
電気機械器具製造業（宣伝担当）	・エコポイント制度の終了により、商品の荷動きが更に鈍化する。			
その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・仕入価格の上昇が進む一方、販売価格への転嫁は遅れるため、その間は利幅の確保が非常に難しくなる。			
悪くなる	繊維工業（総務担当）	・今年に入ってほとんどの取引先の販売状況が悪くなっており、先行きの見通しは厳しい。靴下に対する消費者の購買意欲が急に低下した感がある。		
	化学工業（企画担当）	・原料価格の上昇は、今後ますます進行する。		
	電気機械器具製造業（営業担当）	・今後の中東情勢や原油価格の動向は不透明であるが、原油価格が上がれば原材料コストも上昇するため、先行きの見通しは厳しい。		
	不動産業（営業担当）	・当地域から出ていく会社が多く、事務所、住宅共に解約はあっても新規契約のない状態が続いているため、先行きの見通しは厳しい。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・電気、ガス代の値上げや原油価格の上昇など、周囲から良い話が聞かれない。
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・政治、経済状況が非常に不安定で、先行きの見通しが立たない。
雇用 関連	良くなる	民間職業紹介機関（支社長）	・大手企業の採用予定数が来年度は増加へ転じるほか、中堅、中小企業からの求人依頼も増加傾向にあるなど、ほぼすべての業界、業種で求人が増加する。
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・年度末の確定申告を含む様々な動きが出てきており、求人の依頼件数は米国の大型金融機関の破たん前に近い水準となっているため、今後も好調な推移となる。ただし、正社員を目指す安定志向が強まっており、派遣社員が集まらなくなっている。
		人材派遣会社（支店長）	・政治の不安定感がなくなれば一気に回復する感はあるが、今後の選挙次第である。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・求人数は例年4月以降落ち着くものの、今年は新たな商業施設のオープンといったスポット需要で求人が出るほか、全体の景況感も上向いてくる。
		職業安定所（職員）	・有効求職者数が10か月連続で減少となったほか、新規求職者のうち雇用保険受給者数も13か月連続の減少となっている。その一方、有効求人数や新規求人数は減少したが、これは一時的な要因によるものであり、増加傾向自体は今後も続く。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・今後、派遣需要の増える材料が見当たらない。
		人材派遣会社（支店長）	・企業からの求人数が徐々に増えつつあるものの、新年度に向けた補充や増員など、一時的な動きにとどまる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新聞広告の市況をみると、悪くはならないものの、回復することもない。特に、依然として関西企業の元気がない。
		職業安定所（職員）	・求職者数が増加している一方、雇用保険の受給資格者数は減少している。これは、雇用保険に加入しない短期間雇用が多いことを意味しており、今後も正社員求人が増加するまでには時間が掛かる。
		職業安定所（職員）	・求人は増加しているが、派遣求人の増加が中心で安定性がないため、楽観視はできない。
		職業安定所（職員）	・求人数は増加しているが、企業からは先行き不安に関する声が依然として多い。求人倍率は求人数の増加で改善傾向が続くものの、求職者数が高止まりするなど改善の動きは緩やかであり、すぐに大きな変化は出ない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・求人が増えた要因は、採用をここ数年抑えたことによる即戦力の不足である。決して景気が良くなったためではないため、今後も大きな変化はない。
		民間職業紹介機関（大学担当）	・企業の採用意欲、学生の就職意欲共に、高まる気配がない。人材の質を重視する企業に対し、学生の間には取りあえずフリーターを選ぶ傾向がみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・急激な悪化は一時的であり、全体的な回復傾向に変化はない。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・原油価格の高騰や株安による影響が懸念される。食料価格の高騰もあり、企業収益へも大きく影響するため、特に価格転嫁できない企業は非常に厳しい状況となる。	
悪くなる	—	—	

## 8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	スーパー（店長）	・駅前再開発や近隣商業施設のオープンを直近に控え、取り巻く環境は確実に良い状況となっており、これから数か月悪くなる要素が見当たらない。
		テーマパーク（業務担当）	・春季のイベント開催により来園促進の効果が期待が持てる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・だんだん暖かくなっていく季節的な要因もあるにせよ、客の言動も大分明るくなってきている。しかし原材料の高騰もあり、判断がつきかねる状態でもある。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	・少数ではあるが生活必需品以外の商品を購入する客が出てきており、そうした傾向がこのまま徐々に高まり、状況はやや良くなる。
		百貨店（営業企画担当）	・気候変動が景気に大きな影響を与えてはいるものの、過去3年間と違ってやや明るさが見え始めている。
		コンビニ（エリア担当）	・乗客数の割に売上が伸び客単価が昨年に比べて上昇しており、この状況が継続する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・客の購買動向は高額商品、低額商品それぞれ分かれている。ディスカウント店やスーパー等それぞれ販売の方法は異なるものの、客の購買力が上昇して商品を安くしなくても売上が伸びており、この状況はしばらく継続する。
		衣料品専門店（店長）	・少しずつではあるが外出する人が増え、買物客も増加している状況が継続しやや良くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・高速道路の料金制度改定に伴うハイブリッドカーへの関心が確実に高まっており、新規来店客の希望車種もハイブリッドカーが増え、今後ますます需要が高まっていく。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	・高速道路の料金制度の改定で、好調な週末に加え平日も動きが良くなる。
		都市型ホテル（支配人）	・歓送迎会や桜の開花時期での団体旅行客の受入状況は良くなってきているが、中東情勢の影響で重油価格が生活を圧迫すれば旅行の安近短傾向につながるため、当地への観光にも影響が及ぶ。
		通信会社（広報担当）	・2～3月の春商戦期にはナンバーポータビリティの改善を含め、スマートフォン商品やサービスの拡充などの販売面を引き続き強化していく。
		テーマパーク（広報担当）	・春のイベントやPRの実施により来客数は上向きになる。
		美容室（経営者）	・昨年の来客数や客単価比較すると、12～2月は小休止があったものの、3月は順調に推移しそうで5%程度の売上増加につながる。
		設計事務所（経営者）	・長引く景気低迷のなか、住宅の建築主は以前より慎重になっているが、これまで建築を控えていた人々は待ち切れなくなって動き始めている。
	変わらない	商店街（代表者）	・2～3か月先までに新たな企画や出店の予定がないので、商店街の人通りは現状維持か減少傾向にある。
		商店街（代表者）	・今月の状況より更に悪くなることはない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・明るい兆しが何もみえないのが不安であり、消費者も同じ心境にある。
		百貨店（営業担当）	・春物を売らなければならない時期に、寒さがぶり返してきたため、客が買い控えた影響が出ている。ただ政局や中東情勢も混迷の度合いを深めており、今後の明るい材料が見当たらない現状であるが、米国の大手金融機関の破たん時のように全体が悪い状況ではないため、当面の景気は変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・春物商戦が本格化してくるが、新社会人を中心とするセレモニーマーケットの動きが低迷している。従来であれば雑貨を含めてトータルでの購買が多いのに、今年は単品での購入が目立ってきている。また原油、コーヒー、小麦と各種値上げが相次ぐと想定され、景気の回復はまだまだ期待できない。
		百貨店（売場担当）	・3月からの入園、入学、卒園、卒業式の付き添い需要は単価競争になっており、売上増には結び付かない。3月末からの行楽需要が最大のピークとなるが、所得が減少するなかで特定の分野の商品を低単価で豊富に品揃えしたカテゴリーキラーの支持率は高く、価格を下げた商品で数量を増やして売上バランスを取っていく状況となり、大きな回復は見込めない。
		百貨店（購買担当）	・引き続き春物が順調に推移しているほか、街も観光イベントを積極的に行っているため旅行で訪れる客も多く、景気が伸びている現在の状況は今後も変わらない。
		百貨店（売場担当）	・食料品や生活を便利にするような家庭用品などはまずまず好調に推移するとみられる一方で、ブランドだけが売りとなる身の回り品や衣料などは厳しい見通しであるため、全体では現状とあまり変化がない。
		百貨店（電算担当）	・2月の売上は前年対比プラス4%となっており、女性の春物衣料品好調な一方で、紳士衣料、呉服、美術は低調である。また食料品は観光物産展で売上を伸ばしているが利益は上がっていない。新規に商業施設ができるため競争激化が必須な状況であり、どんな対策を立てるべきかが不安材料となっている。
		百貨店（販売担当）	・来客数は回復しているものの、前年並みの売上高の確保がやっとという状況であり、今後も景気が大きく改善することはない。
		スーパー（店長）	・2～3か月先にはコーヒー、乳製品、油製品等の値上げが想定され、現状維持がやっとである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・当社は青果の売上構成比が高く、青果物相場の影響を受けやすいが、天候も回復し青果物も順調に入荷しており、60～90日で作付けしたものが集荷される見通しにあるため、価格が落ち着き商品点数も増えほぼ現状を維持する。ただし今後コーヒーや小麦などの原料の高騰の影響が懸念される。
		スーパー（店長）	・原油価格高騰により、家計が厳しくなるのではないかと懸念している。
		スーパー（店長）	・気候にもよるが、大きく変化する要素が見当たらない。
		スーパー（経理担当）	・必要なもののみ購入する消費の横ばい状況が続く。
		スーパー（財務担当）	・同業他社との低価格競争により、今後も既存店売上の前年割れが続く。
		スーパー（販売担当）	・暖かくなり来客数は少し増加するが、値上がりする商品が多いことから現状と変わらない。
		スーパー（管理担当）	・売上、来客数ともに現時点で前年を上回っている状況にあり、景気はやや良くなっている感はあるが、4月に小麦粉等の値上がりの影響が出てくるので、今後の見通しとしては何とも言えない部分がある。
		コンビニ（エリア担当）	・景気回復の兆しもみえず、収入が増加する傾向もみえないことから末端小売業の状況が変わることはない。
		コンビニ（営業担当）	・来客数、客単価が増加する要因が見当たらない。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・3～4月初めはフレッシュマンの必需品として現在同様に売上が見込めるが、5月ごろの一般の需要は見込みが立たない。
		衣料品専門店（販売担当）	・季節的には売上は増加してくるが、客の景気感が変わらない。
		家電量販店（店長）	・客は必要以外のものは購入せず、辛抱して使い続ける傾向が強い。
		乗用車販売店（店長）	・前月に続き販売が順調に伸びているが、国内外の政情不安及びガソリン等の値上げを考えれば先行きが不透明となる。
		乗用車販売店（副店長）	・景気に影響を与えるものがなく、特に変化はみられない。
		乗用車販売店（業務担当）	・好転する要因が見当たらないため、2月並みで推移する。
		自動車備品販売店（経営企画担当）	・春のタイヤ交換や履替えに期待が持てる。また客の反応次第であるが、タイヤ値上げの駆込み需要も期待できるが、節約志向は続く。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・政治不安、株安など不安材料が多く、なかなか消費には結び付かないほか、人口減少も売上低下の要因のひとつになっている。
		その他専門店〔和菓子〕（営業担当）	・これ以上良くなる要素がない。
		その他小売店〔ショッピングセンター〕（営業担当）	・販売量の動きに変化がない。
		一般レストラン（店長）	・景気は底を着いた感があるが、客単価の低下はしばらく続く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊ではインターネットでいかに安いホテルを探すかが、ビジネス客に定着しており、この傾向は当分続く。
		旅行代理店（経営者）	・政府の景気回復の施策もみえず、客は旅行に期待するよりも現在の生活をするのが精一杯である。旅行業界が元気にならないければ客も旅行に目が向かない。
		タクシー運転手	・3月は年度末、異動の時期でもあり売上の増加を期待しているが、計画通りとはならなかった昨年の12月の例もあり、景気回復に注目している。
		通信会社（社員）	・新規サービス利用に関する問い合わせに変動がないため、数か月後に販売量が増加する見込みがない。
		通信会社（企画担当）	・これから年度区切りを迎える時期に若干期待する話も出るが、エコポイント等景気を引っ張る要素もなく停滞感は強い。
		通信会社（営業担当）	・多チャンネル放送は相変わらず解約数が多い状況が続いている。この状況は7月の地上アナログ放送終了まで変わらない。
		競艇場（職員）	・来客数及び売上が横ばいとなるレースの割合が多い状況が継続する。
		美容室（経営者）	・客の節約志向は継続しており、身だしなみを整えようと訪れる来客数が増加する状況はうかがえない。
		住宅販売会社（従業員）	・客の心理が大きく変化を来す状況ではないので、買い控え傾向にも変化がみえてこない。
		住宅販売会社（販売担当）	・今月は悪天候も重なり、展示場や売出しイベントへの来場が少なく、今後も受注量は増えそうにない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・政局が不安定であり4月には統一地方選挙もあることから、引き続き厳しい状況が続く。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・通常の会社関係の名刺、ゴム印等の注文が少ないうえに、会社設立に関する印鑑の注文がみられないことから、前向きな動きが感じられず厳しくなる。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・これだけ売上が低下すると弱気にならざるを得ない。
		スーパー（店長）	・月を追うごとに状況が悪くなっており、この傾向が2～3か月先も続く。
		スーパー（営業システム担当）	・小麦粉、コーヒーの値上がり一般食品雑貨や要冷蔵の日配商品に影響を及ぼすため、先行きが不安である。
		衣料品専門店（経営者）	・客の購入単価が低いことに加え、先行き不安から購買意欲が低くなっている。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・一品単価の引下げによる販売量の拡大が思うように見込めず、在庫過多に陥るとともに、春物の販売期間も短く、そこを意識した消費者に買い控えが発生する。
		家電量販店（店長）	・先月に比べ来客数は前年並みに戻りつつあるが、単価の下落も響き売上は引き続き低調で、景気は家電エコポイント制度変更の反動後なかなか改善してこない。当面はこの状況を打破するだけの材料もない。
		乗用車販売店（統括）	・エコカー購入補助金効果の反動で、売上の前年割れが9月まで続く。
		一般レストラン（経営者）	・中東原油の価格変動の影響でコーヒー、砂糖、大豆、小麦のほか、パンやうどん等関係する商品が値上がりする。
		観光型ホテル（スタッフ）	・観光ホテルの売上が県内で低迷している。
		都市型ホテル（総支配人）	・ビジネス客、観光客ともに宿泊予約率で前年を下回っており、景気はやや下向き傾向である。
		都市型ホテル（従業員）	・いつもなら3月以降年度末の宿泊や宴会予約は2月ころから動きが出てくるが、今年は例年より低調である。
		タクシー運転手	・客は年金や物価高騰に不安を持ちタクシーの利用を控えることから、運賃値上げを実施した昨年4月と比べ売上は、全体、個人とも数%減少する。
		通信会社（通信事業担当）	・どうしても大手のインセンティブなどが多いサービスに押されがちで、思うように伸びが期待できない。
住宅販売会社（経理担当）	・景気刺激策も今年一杯で終了するものが多く、政治不安が将来不安になっている傾向がある。更なる景気刺激策がないと景気回復は望めない。		
	悪くなる	商店街（代表者）	・商店街が今後どのように変わっていくのか不安である。
		商店街（理事）	・国際情勢も国内の政治状況も良くないことに加え、身近では商店街に空き店舗が増えて寂しくなり、不景気という精神的な不安が購買動向に影響するほか、小麦や石油の値上り状況にあるため、良くなる材料は全く見当たらない。
		家電量販店（店長）	・家電エコポイントが3月末で終了し、対象商品の売上が減少することに加え、現状では減少分を補える商品群が見当たらない。
		乗用車販売店（経営者）	・原油の高騰を始め輸入品目の高騰が足を引っ張ることになり、更に買い控えが進む。また、街のにぎわいもめっきり少なくなってきた。
		住関連専門店（広告企画担当）	・目先の価格帯でのみ購入の判断を行う傾向が続いているので、景気は良くならない。
		観光型ホテル（支配人）	・九州新幹線の開通で宿泊客は九州方面に流れる。現に旅行代理店の募集ツアーでは、岡山・倉敷地区は激減しているとの情報が入っている。
		美容室（経営者）	・原油価格の上昇等良くなる材料もなく、更に状況は悪くなる。
		企業動向関連	輸送用機械器具製造業（経営者）
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	・売上見込みが前年よりやや良くなっている。
		化学工業（総務担当）	・当面の先行きに不透明感が強い。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・グループ内での生産体制の見直しが行われており、それにより当社の生産が増加する見込みであるが、焼却炉など従来からの工事案件での製品受注が芳しくなく、生産水準は低調の見込みであることから、社内で多忙部門と閑散部門が共存する状態が続くようである。
		非鉄金属製造業（経理担当）	・全般的に大きな動きは予想されていないが、エコカー関連の受注には若干増加の動きがある。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	・自社製品の売上では海外向けは回復しつつあるものの、国内向けは今後も当面厳しい状況が続く見通しである。
		電気機械器具製造業（広報担当）	・受注が十分に確保できる見通しはない。
		建設業（経営者）	・徐々に厳しさが増し今後の見通しは下向きである。
		建設業（総務担当）	・引き続き利益率を考えないでの受注活動が続けられる一方、資材の価格は上昇する。
		輸送業（統括）	・景気が良くなる話はいくらか聞くが、見積りを出しても金額が低価格化しており、仕事が増えても利益があまり出ないためあまり変わらない。
		通信業（営業企画担当）	・引き合いは増加しているものの大型案件が少なく、一案件当たりの単価が高くない。
		金融業（自動車担当）	・円高による輸出採算の悪化や先進国での需要低迷を背景に、主要受注先からのコストダウン要請が強まっていることから、売上は横ばいで利益はやや低下する見込みである。
		金融業（営業担当）	・地元を支える中小企業者の投資マインドは一向に回復してこない。一部のいわゆる勝ち組企業や高齢者福祉関連の施設を運営する会社に設備投資がみられるものの、一握りの企業であり、地元の大半の企業は日々の資金繰りに追われている状況である。地元経済を支える中小企業の経営者に未だ前向きな経営展開をする姿勢がみられないことから、今後3か月もおおむね横ばいの景気が継続する。
		広告代理店（営業担当）	・年度末で良くなる材料が何もないので、県内の広告業はこのままで推移する。
		会計事務所（職員）	・4月以降の見通しは白紙のところが多いが、製造業の今の勢いは少なくとも2～3か月は維持できる。
やや悪くなる		農林水産業（従業者）	・1月に入ると時化が多く出漁日数が減少するが、今年は寒波襲来のためほとんどの魚種で前年比を大きく割り込んでいる。
		食料品製造業（業務担当）	・原油価格の高騰が包装材や配送代の上昇要因となり、その金額を商品に付加できない状況が前回の原油高騰時に起きたが、また同じことが起こる。
		化学工業（経営者）	・仕入先からの値上の申し出に加え、引き続き取引先の生産計画が下方修正となり、身の回りの景気がやや悪化基調になる見通しである。
		金属製品製造業（総務担当）	・鉄原材料価格が上昇基調にあり、原価をじわじわと押し上げているため、コスト削減に最大限努めているものの、吸収し切れていない。そのため、販売価格は変わらず収益面での悪化は避けられない。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・原油価格や為替相場の見極めが重要になることを勘案すれば、先行きの不透明感は否めない。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・顧客からの発注内示が減少してきている。
		輸送業（運送担当）	・今月撤退した運送会社の地元営業所の発送量が今まで3割を占めていただけに、しばらくその影響はまぬがれない。
悪くなる		鉄鋼業（総務担当）	・地場の自動車メーカーの直近の生産台数は堅調だが、4～6月の生産台数は1～3月に比べ大きく減少しており、この地区の鉄鋼関係メーカー、流通、コイルセンターも4～6月は今より状況が悪くなる見込みである。また4月から鋼材値上も予定しているが、転嫁がより進みにくい環境のため収益も悪化する見込みである。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・値引きの対応がすぐにできない。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・海外調達している部品の仕入価格や原油価格の上昇による材料費の上昇、国内の消費低迷、商品の低価格化など悪い条件は増加する一方で好材料はひとつもない状況である。
雇用関連	良くなる	職業安定所（職員）	・サービス業や医療、福祉関係の求人は今後も増加が続くとともに、建設業では年度末に向けての工事量が確保されるため、作業員や警備員の求人が増加する一方で、製造業は求人も低調な動きとなる。
	やや良くなる	人材派遣会社（支社長）	・特に中小企業に関しては採用の動きが活発化してきている。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・行政も大学卒などの就職斡旋に力を入れているので、今春卒業の大卒者向けの就職マッチングなどで一定の採用枠を各企業が設けている。来春卒業者に関しても地元銀行やインフラ系企業の採用枠拡大が図られ、景気の底を脱する感触がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・管内大手化学メーカーの業績が好調で、関連企業の求人も増えてきている。新規求職者数は前月比では増加しているが、前年同月比では10%近く減少しており、一昨年や昨年の同時期のような相談窓口の混雑は見られない。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・判断材料が少なく上向くとも下向くとも言えないが、労働者派遣法改正案が通過するなどの動きがあれば、需要が変動する恐れがある。
		人材派遣会社（営業担当）	・求人数は3か月前と比べ停滞しており、すぐに増えそうな動きはない。ただ悪くなりそうな感じは受けないものの、回復も見込めない。
		求人情報誌製作会社（支社長）	・景気は上向きだがアフリカや中東の混乱が原油高につながる恐れもあるため状況は変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・全体的に消費の冷え込みが厳しく、地場中小企業に景気回復の道筋はみえず、当分は今の状態が続くようである。
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	・中東問題で原油価格高騰懸念があるため、回復傾向がみられる鉄鋼業や製造業にも確実に影響が出る。
		学校〔短期大学〕（学生支援担当）	・来年3月卒業の学生に対する求人が出始めているが、その数は多くない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・年度末の繁忙ピークを過ぎ、人材派遣、有料職業紹介ともに需要が一旦落ち込む見込みである。また労働者派遣法の改正動向も未だ不透明であり、大手企業を中心に派遣の利用控えは続く見込みである。
		職業安定所（職員）	・求人の増加傾向も先行きの不透明感から臨時、パート求人が中心となっている。大手製造業の事業所閉鎖を3月末に控え、下請事業所で先行きに不安感が出てきている。
	悪くなる	—	—

#### 9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	一般小売店〔菓子〕（総務担当）	・2月の売上は昨年同月を上回った。毎年、この時期から新年度に向けて売上は伸びていくため、期待感がある。
		コンビニ（店長）	・文具、電池、衣料のような、量販店より単価が高い商品が動くようになった。デザートなどのプラス一品的商品の売上も好調である。消費者に少しゆとりができてきたのではないかと思う。
		家電量販店（店長）	・今後は、3月期限のエコポイント商品と、7月のアナログ放送終了を踏まえたテレビが動いてくる。
		タクシー運転手	・四国八十八箇所参りの遍路客が増えてくる。
		通信会社（企画）	・現在の客動向やテレビ業界の状況から判断してやや良くなると考える。
		変わらない	商店街（代表者）
	一般小売店〔生花〕（経営者）		・送別、卒業シーズンや、母の日などの贈答は例年と変わらず予約が入ってきている。しかし、その他の予約は減少している。
	一般小売店〔酒〕（販売担当）		・政治不信が続く限り、景気上昇は見込めない。選挙を控え、繁華街への外食も減り、町全体が活気を失っている。
	百貨店（営業担当）		・僱事については好調で客数、客単価は増加している。しかし、高額商品は相変わらず動きが少ない。また、ファッション関連は商品群、対象年齢層により売れ行きにばらつきが見られた。
	百貨店（営業担当）		・当社として集客のための様々な施策を打っているが、市や県または国の動きがまだ見えない。
	百貨店（販売促進担当）		・消費者はセールになるのを待つ傾向にあり、今後、景気が良くなるとは思えない。
	スーパー（店長）		・回復の兆しはあるが、ガソリンや野菜類が少しづつ値上がりしている。また今後、コーヒーなど、値上がりする商品もあるので、なかなか景気回復には向かわない。
	コンビニ（総務）		・景気の先行きが不透明であるため、消費者の節約志向は変わらない。
	衣料品専門店（総務担当）		・現在は、低単価の商品やセール商品でもしっかりと吟味した上で購入する姿勢が強く、このような顧客志向は容易に変わる気配がない。顧客の給与が上がるなどの景気の良い話はなく、依然厳しい状況は変わらない。
	家電量販店（営業担当）		・今後のテレビの販売は、価格を安くする土日が主力になってくる。月や曜日により、上がり下がりが大きくなっている。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・会計年度末を3月に控え、例年なら売上が上がるが、今年の2～3月は苦戦を強いられそうである。購買意欲を掻き立てられるような経済政策を早く打ち出して欲しい。
		乗用車販売店（役員）	・景気の先行き状況は基本的に変化がないと思う。しかし、企業の業績回復が明確になり、新車の投入などもあって、個人の購買意欲も少し変わってきたように思う。
		住関連専門店（経営者）	・売上が伸びない状況が続いており、徐々に下落してくる懸念もある。
		観光型旅館（経営者）	・3～5月は来客数の増加を期待していたが、今の予約状況は芳しくない。
		タクシー運転手	・年取が増えない、もしくは減少したという客からの声が聞かれる。また、昨年、NHK大河ドラマ効果のあった観光客の動向は不透明である。
		通信会社（支店長）	・国内や県内の景気状況を見る限り、大幅な販売拡大は望めない。
		ゴルフ場（従業員）	・3か月先はシーズンに入るが、良くなる程でもないと思う。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・3～5月は、商店街では様々なイベントがあり来街客数は望める。しかし、販売に結び付くかどうかは、個店の商品の魅力に左右される。各社せめぎあいになり楽観視できない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・当社の立地環境は、高速道路の終点地であったが、来月から終点が西に伸びる。今後は単なる通過点になってしまうのではないかという懸念がある。
		スーパー（店長）	・穀物相場の高騰により製品価格が上昇し、消費に影響することが懸念される。
		スーパー（企画担当）	・原油価格の上昇や、小麦、食用油、コーヒーなどの値上げが続くため、個人消費が抑えられると推測する。
		スーパー（人事）	・ようやく底打ちしかかっている消費も、小麦や石油価格の値上がりりがマイナスに響きそうである。
		スーパー（企画・営業担当）	・春以降も、衣料品を中心とした今冬の良い状況が続くかどうかは不透明である。
		衣料品専門店（経営者）	・政策不安のため、消費者は支出を控えている。
		家電量販店（店員）	・地上デジタル放送移行前の駆け込み需要が少し期待できるが、新生活需要が一段落した後は、大幅な売上減が予想される。現在、新生活準備で来店する親の中には、自分の買いたい物を諦めて、子供の新生活商品を購入している人もいる。
		乗用車販売店（営業担当）	・春の需要期に入り期待は大きいですが、現状から見て、3月は期待が薄く、4月以降は更に悪くなる可能性が高い。
		旅行代理店（支店長）	・中東情勢悪化やニュージーランド南部地震の影響、また、航空燃油サーチャージの上昇の影響により、海外行きを控える傾向になる恐れがある。
		競艇場（職員）	・当面ビッグレースの開催がないことから、2～3か月先も減少傾向は続く。
		美容室（経営者）	・消費意欲が上がる要素が全く見当たらない。
設計事務所（所長）	・4月以降の受注見込みが立っている建設会社は少ない。		
悪くなる	一般小売店〔乾物〕（店員）	・原材料、燃料費の値上げが心配される。	
	乗用車販売店（従業員）	・中東の政権が不安定となっており、原油の値上がりりが予想される。ガソリン価格の上昇は、新車販売市場を更に悪化させる。	
	設計事務所（職員）	・官民ともに、土木事業は大幅な減少傾向が続くため、手持ちの仕事も底をつくことが懸念される。	
企業動向関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・現在、3月納期以降の引き合い量が増加している。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・国内は底打ち感があるものの、受注販売の増加にはまだ繋がっていない。当社の取扱製品は、ショベルメーカーより1年ほど遅れて動く性質がある。ショベルメーカーの需要は既に回復基調にあることから、当社を取り巻く環境も少しずつ改善していくことが予想される。また、海外取引は、昨年12月より受注が増加している。
		通信業（部長）	・当社の新商品の購入を検討している企業が増加している。競争環境は厳しく、楽観できる状況ではないが、良い提案に対する反応は良くなり始めている。
通信業（営業担当）	・春になり、企業も個人も行動的になることから消費が増えると考え。身の周りから、デフレスパイラルからの復活の動きが感じられる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	不動産業（経営者）	・ここ最近では、住居用の物件にやや動きが出てきている。今後の動向にも期待が持てるため、各業者は広告展開やイベントを検討している。
		農林水産業（総務担当）	・小売店からの受注は増えるが供給量も増え、需給バランスは保たれる。
		鉄鋼業（総務部長）	・円高前の受注とスポットの大口受注があるため、3か月先までは100%操業が維持できる。しかし、その先は不透明である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・北米や欧州市場の需要低迷が依然として続いている。
		建設業（総務担当）	・県の来年度予算案が発表され、学校の耐震化を中心に、公共投資は昨年度に比べかなり増加している。しかし、採算面ではほとんど期待できない状況である。
		広告代理店（経営者）	一部の得意先では、新規案件の受注が見込める。しかし先行き不透明感が強く依然として消費低迷が続いており、得意先では新年度からの広告予算の見直しで削減傾向が続いている。
		公認会計士	・売上に対する不安を持つ経営者が多い。現状の売上を維持しながら、何とか利益を出していく先がほとんどである。やはり、売上が伸びないことには、景気は本格的には上向いていかない。
	やや悪くなる	食料品製造業（従業員）	・消費がなかなか回復してこない。そのうえ、原料は益々高くなるが売価は上げられないという状況下にある。
		木材木製品製造業（経営者）	・年度末は、季節要因から在庫調整があり落ち込みが予想される。しかし、6月頃から若干上昇してくると思う。
		広告代理店（経営者）	・原油価格の高騰により、原材料、資材・補材価格が上がるであろう。
悪くなる	輸送業（統括）	・燃料が高騰することが懸念される。	
	輸送業（支店長）	・原油価格が高騰しているが、荷主への運賃転嫁が見込めないことから、費用負担の増加が見込まれる。	
雇用 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（営業）	・年度が変わり、人の入れ替わりも増えることから、消費意欲を引き出すための商品企画・販売が強化されるであろう。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・卒業、異動のシーズンに入り、求人数が活発になる。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・緊急人材育成支援事業は比較的好調であるが、企業の人材採用はまだまだ低迷状態である。新卒も、買手市場にもかかわらず動きは低調である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・金融業界は5月以降、広告予算を縮小する計画である。業績が悪いわけではないが、市場規模の縮小に対応しているように見える。3月からスタートする県のふるさと博に期待したいが本格的に稼働しだすのは7月からであり、今はこれといった明るい材料がない。
		職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率は、先月と同じであった。
		職業安定所（職員）	・求人状況は良く、また、新規求職者の増加もみられる。しかし、円高や石油価格の値上がりの影響が懸念される。
		職業安定所（職員）	・新規求人は増加を続けているが、求職者の意欲を刺激する採用条件ではない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人数は増加傾向にあるが、好転するほどの勢いはない。未内定の学生は来年度卒業の学生と競うことになり、厳しい状況となる。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業部長）	・労働者派遣法における専門26業務の厳格化による派遣可能期間及び業務の制限、さらに、その後の直接雇用の促進政策は、企業の派遣活用意欲をそぎ、派遣契約の打ち切りが見込まれる。
人材派遣会社（営業担当）		・新年度より、新卒を採用するため、派遣社員の求人が少なくなり、不安を感じる。	
民間職業紹介機関（所長）		・中途採用者の採用人数は減っており、また、新卒者の採用については来年度から減らすという企業が多い。	
悪くなる	—	—	

## 10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・九州新幹線全線開業の影響により県全体の宣伝がにぎやかで、県民1人1人のムードが良く、景気は良くなる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・2月下旬から春物衣服の動きが前年と比べて良くなっている。当社で取り扱っているバッグも売上と来客数が共に微増し、景気回復を少し感じられ、今後を期待したい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔精肉〕(店員)	・駅ビルがリニューアルオープンして周辺地域に活気が出てくるため、景気は良くなる。
		一般小売店〔生花〕(経営者)	・客は経費削減傾向にあり、通常この時期には予約がある固定客からの注文がまだ入っていないためあまり楽観はできないが、例年通り卒業式、入学式シーズンや母の日等、花屋にとっては一番忙しい時期となる。
		百貨店(営業担当)	・品の買上単価はデイリー商品、ギフト商品共に前年を上回っている。また、紳士・婦人衣料、雑貨は前年並みで推移しており、回復傾向にある。また外商の売上も前年実績をクリアした。街ぐるみの情報発信による来店促進等の提案への好反応が顕著になっており、これから良くなる。
		百貨店(営業担当)	・来客数は直近数か月で前年並みとなっており、客足が戻っている。なかでも、宝飾や特選ブランド、高級婦人服等の高額品が前年を上回って推移しており、客の購買意欲の上昇がうかがえる。
		百貨店(営業企画担当)	・高額品に動きがあることや九州新幹線全線開業の影響で多くの人が地域に来るため、良くなる。
		スーパー(店長)	・前年とは違い価格が安定している。また、客単価や買上点数を増やすための販売促進により、売上が好調に推移している。衣料品は冬物衣料の処分に危惧している状況である。春物衣料の仕入れを控え、早い時期から夏物衣料に切替える準備をしている。現在の景気の状態は今後も続く。
		スーパー(店長)	・これから新入学や卒業、新生活等のマーケット需要が非常に高まる時期である。旅行バッグやキャリーバッグについても動きが非常に好調になっている。品質と価格帯が合えば購入する傾向が高く、これから景気は良くなる。
		衣料品専門店(経営者)	・暖かくなってきたという季節的な要因もあるが、人が外に出るようになっており、客の雰囲気が良い。今後は良くなる。
		家電量販店(総務担当)	・3月末のエコポイント終了前の駆け込み需要が期待できる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(統括)	・店舗で販売している携帯電話の動向をみると、スマートフォンの購入比率が高まっており、今後、ますます販売比率が高まる。3月中旬より新商品も投入され、前年と比較すると、全体的に買換えも促進され、販売台数は増加する。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕(支配人)	・気候が暖かくなり、前年実施した改装効果が出てくるため、今後に期待できる。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕(従業員)	・イベントが開催され、前年より売上が増加する。これから景気は良くなる。
		高級レストラン(経営者)	・客単価はシビアなところがあり、通常より少し下の金額設定の商品が良く出ている。ただ3、4月の歓送迎会等の予約があり、今より少しは良くなる。
		高級レストラン(専務)	・九州新幹線の全線開業の影響で今後、街中に人が増える。それがどこまで消費に結びつくか、ふたを開けてみないと分からないが、良い材料にはなる。
		観光旅館組合(職員)	・これから気候的にも観光シーズンとなり、ゴールデンウィーク等の連休も控えているため、客は多くなる。客の様子をみても、明るい兆しがみえる。
		観光ホテル(総務担当)	・九州新幹線全線開業の影響は間違いなくプラス効果となる。これから景気はやや良くなっていく。
		ゴルフ場(従業員)	・九州新幹線は3月に鹿児島まで全線開通するが、それに向けた予約も少しずつは増えている。韓国等海外の予約には期待していたものの、火山の噴火の影響から取れなかった。新幹線開通の影響で潤ってくると期待している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕(管理担当)	・季節的に暖かい時期となってくことで、例年通り病院から退院する客の増加や利用キャンセルの減少により、売上の増加が期待できる。
		設計事務所(所長)	・官公庁の発注が増えており、民間も住宅や店舗等の計画が順調に出てきている。これから景気はやや良くなる。
		変わらない	商店街(代表者)
商店街(代表者)	・客の動きはあまり良くない。買物に慎重な姿勢は変わらないため、景気はこれからもおそらく変わらない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔青果〕 (店長)	・火山の影響や鳥インフルエンザの影響が買物の購買意欲にどの程度影響しているか分からないが、客の様子はあまり良くない。これらの終息がはっきりするまでは、かなり厳しい状況が続く。
		一般小売店〔鮮魚〕 (店員)	・もうすぐひな祭りであるが、最近では家庭で祝いごとをしなくなったようで、祝いごとの材料が売れない。せいぜい出来合いの寿司や総菜でお祝いするようだ。日本文化や伝統等をもっとアピールする必要がある。
		一般小売店〔茶〕(販売・事務)	・新茶の季節に入るので売上には少し期待できるが、今年も仕入値は高騰しており、利幅を縮小してでも在庫は残さないようにしなければならない。
		百貨店(営業担当)	・原材料の値上がり等があり、製品価格に転嫁せざるを得ないという懸念がある。国際情勢も不安定であり、不安材料がかなりある。また製品価格が上がっている割には所得が伸びておらず、少し厳しい。景気は年度後半に回復するような気配であるが、今現在では見極めがつかない状況である。
		百貨店(売場担当)	・街全体の景気動向は悪くないが、駅ビルのオープンや新幹線全線開業があり、そちらに客が集中するため、そのマイナスの影響が若干懸念される。今のところどちらとも言えないと判断するが、市況的には決して悪い状況ではない。
		百貨店(営業企画担当)	・一部の製造業に好転の兆しがあるものの、景気浮揚策等もなく、都心部の大型店出店により、近郊の小売業は苦しい状況が続く。
		百貨店(企画)	・決算時期を迎え、全体的に各企業の業績は上向いているようだが、給与所得が増大し、個人消費が上向くにはまだ時間を要する。また、政府による景気浮揚策も手詰まり状態なので、しばらく身の回りの景気は変わらない。
		スーパー(店長)	・今後、ガソリンや小麦粉、コーヒー等の値上がりがあると思われ、厳しい状況となり、これまでとほとんど変わらない。
		スーパー(店長)	・今後の円高の状況や原油価格の高騰が今後の景気を大きく左右し、不透明感がある。世界的な食品価格の値上げ問題もある。
		スーパー(総務担当)	・来客数の変化はあまりなく、客単価もここ数か月低迷している。客の商品選択の傾向は相変わらず、特価品等の低価格帯商品となっている。
		スーパー(経理担当)	・消費そのものが縮小している上に、ディスカウント店やドラッグストアの出店意欲が相変わらずおう盛で、ますます競争が過密になっている。
		スーパー(業務担当)	・政府の経済政策が出されない限り、消費者は可処分所得を増やさない。特に小売業では買い回り品の動向をみても、景気回復を表すような動きは見当たらない。
		コンビニ(経営者)	・今以上に悪くなる兆候も見受けられないが、良くなる兆候も全く見受けられない。今の悪い状況に変化はない。
		コンビニ(エリア担当)	・客の様子をみると、良くも悪くもない。ただ春先から新入学生や新社会人を迎えるにあたり、新規客を獲得するため、販売促進等を行い、来客数の増加を図る。
		家電量販店(店員)	・家電エコポイントが終了間近であるが、家電エコポイントに魅力を感じる客は減っており、需要はなくなってきている。アナログ放送が停波するが、駆け込み需要の気配がなく、これから明るい材料はない。
		乗用車販売店(従業員)	・自動車の減税対象期間が来年3月までとなりアピールの材料になるが、あまり変わらない状況が続く。
		乗用車販売店(販売担当)	・販売量はエコカー補助金制度があった前年の反動減がある。当分は前年より低いレベルの販売量で推移する。この流れは変わらない。
		乗用車販売店(総務担当)	・厳しい販売環境に変わりが無いが、先月投入された新型車のプラス効果を最大限に生かし、来場者数を増やし、販売台数を伸ばしていく努力をしなければならない。
		住関連専門店(経営者)	・必要に応じた家具の買換え需要が出ており、今月の売上をみるとそろそろ底打ち感がある。ただ、これから景気が回復する様子ではない。
		高級レストラン(支配人)	・世間全体の景気の冷え込みは続いており、客の様子をみても、消費の回復傾向はなかなか進まない。
		スナック(経営者)	・すぐに良くなるような要素は見当たらず、店の維持も限界にきている。今後も厳しい状況となる。
		旅行代理店(従業員)	・今年のゴールデンウィークは日並びの良さもあり、旅行期間の長い長距離の予約が順調である。九州新幹線全線開業の影響は目立った動きがまだない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・歓送迎会の季節となり、人事異動があるが、あまり送別会等の話は聞かれない。また、買物の客が街に全然出てこなくなっており、厳しい状況が続く。
		通信会社（営業担当）	・マイナスの要因がなくなると、景気は回復しない。客の様子も良い状況ではない。
		通信会社（総務担当）	・景気低迷が当面続くなかで、今年7月のアナログ放送停波まで、地上デジタル放送の未加入者等への切替え推進を積極的に行う。春の入学、転勤シーズンでの加入のキャンペーンを行い、事業計画達成に役職員一丸となる必要がある。
		通信会社（業務担当）	・3月の新卒需要に加え、同時来店する家族の携帯購入も想定される。2月同様、販売数は前年並みになる。
		通信会社（企画担当）	・年度末の季節要因による販売量の増加は期待できるが、トレンドとしての販売量の増加は期待できない。
		テーマパーク（職員）	・火山噴火の悪影響を和らげるため、自社ホームページでその日の宮崎の写真に掲載する等、イメージ回復に努めている。例年並みの春休み、ゴールデンウィークプランを立てているが、自然が相手であり、先が読めないため、変わらない。
		ゴルフ場（支配人）	・これから新緑の5月に向けて客足は例年並みに増えていくが、客単価の低下は続いており、売上は伸びない。従来通りのサービスを提供しながら、コストを削減していくには限界がある。厳しい経営を強いられる。
		美容室（経営者）	・2、3か月先の景気、人の心は明るく、春爛漫の時期となり、景気が回復するような時期であるが、消費者の購買意欲は向上せず、今後も変わらない。大きな公共事業もなく、何か一つ目玉になるような政策を考える必要がある。
		美容室（店長）	・景気が不安定なので、消費者は皆お金を出さない。使わないようにしている様子が客から見受けられる。
		設計事務所（所長）	・とにかく仕事となる案件が少なく、今のまま変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・景気不透明感の払しょく材料がなく、厳しい状況が続く。
		やや悪くなる	
商店街（代表者）	・これから卒業、入学、就職とお金がかかることばかりで、余計な物は買わない傾向が続く。客も景気が悪くなり残業もない様子である。商店街でも、これまではそこそこ良かった飲食業さえ、客の動向があまり良くなく仕入れを控えており、売上が上がらない。今後もこの状況が続く。		
商店街（代表者）	・客の様子をみても、消費者の購買意欲につながる良い材料が見当たらない。		
百貨店（総務担当）	・県内に新しい商業施設が開業し、当地区へのマイナスの影響は避けられない。		
百貨店（営業担当）	・当地区は特需状況であるが、口蹄疫や鳥インフルエンザ、そして火山の噴火等外的要因も相まって、今後もやや悪くなる。		
百貨店（販売促進担当）	・来客数や客単価が下がる一方で、景気が良くなるとは考えにくい。		
百貨店（業務担当）	・テレビ等で報道されている政治経済の不安定な動きが、客の消費行動に悪い影響を及ぼしている感は否めない。客の需要喚起も、民間で努力するにも限界があり、厳しい状況となっている。		
スーパー（総務担当）	・政府の内需刺激策等は明確なものがなく、雇用や所得環境の改善に対する具体策もなく、市場は失望感が大きい。同業他社間の競争激化も増しており、将来への不安が払しょくされない。		
コンビニ（販売促進担当）	・今後のガソリンの値上げ幅によって、状況はかなり変わる。小麦粉や包材、他の原材料も値上がっており、厳しい状況である。物流の燃料費の値上げとダブルパンチを迎えようとしているなかで、売上を上げるためにいかに販売個数を上げるか課題は多い。		
衣料品専門店（店員）	・百貨店の新規オープンに客は集中し、当店の来客数は減少する。		
衣料品専門店（総務担当）	・当地商店街において、核店舗である百貨店の撤退に伴い、商店街の地盤沈下がますます進む。これはマイナスの影響となり、厳しい状況である。		
都市型ホテル（副支配人）	・4、5、6月の団体の予約、あるいは当地区で大きな学会等のイベントがない。そのため厳しい予約状況になっている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		タクシー運転手	・高齢者の病院通いがいくらか少なくなっている。そういう面でタクシーの利用客はますます減少している。	
		タクシー運転手	・またいつ火山灰が降るかもしれない状況に加え、選挙が始まり、昼夜共に街に人が出なくなる。タクシーの利用が少なくなる。	
		理容室（経営者）	・3～4月は卒業や入学のシーズンであるが、美容業界は固定客なので卒業や就職で客が県外に出る場合、来客数が減ってしまう。今年もその動きはあり、売上は減少する。	
		美容室（経営者）	・4、5月は大きな行事もなく、報道等をみても政治及び景気の状態は懸念される情報が多いので、客の財布のひもは固くなっている。おしゃれに関する費用は削減され、景気は悪くなる。	
		その他サービスの動向を把握できる者 【フィットネスクラブ】（営業）	・九州新幹線全線開業や毎年開催するイベント等により、観光やホテル業を中心に幾分かの好景気が期待されるが、継続的なものになるかについては判断が難しい。	
	悪くなる	衣料品専門店（店長）	・消費者の収入が減っており、買物をする回数が減っている。これから諸物価の値上がりが言われており、ますます厳しい状況となる。	
衣料品専門店（店長）		・商店街の店舗数が最盛期の3分の1になり、来街者数が激減している。これから厳しい状況となる。		
企業動向関連	良くなる	広告代理店（従業員）	・九州新幹線全線開業に伴う各種の経済効果が多大に出るため、良くなる。	
		経営コンサルタント（代表取締役）	・九州新幹線の全線開業に伴い商業施設や施設の整備等がかなり進んでおり、観光客の増加はもとより地域の活性化が図られる。4、5月は観光を中心に、盛り上がっていくので、かなり良い状況になる。	
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・例年3月は行楽や異動シーズンで、居酒屋やスーパー関連等かなり期待できる月であるが、今年は鳥インフルエンザの後遺症が少し残りそうである。鳥肉は、寒波や鳥インフルエンザから全体的に生産が減少し供給不足であるが、業界に対する影響は薄い。引き合いは多いが価格が弱く、本来の粗利が確保できない。ただ春先から夏場にかけて諸々の悪条件が解消されれば、需要は戻ってくる。	
		食料品製造業（経営者）	・鳥インフルエンザや火山の噴火等で旅行客のキャンセルが増加したことや南九州への旅行客が減少傾向にあったこと等から、売上は減少している。しかしながら、3月の九州新幹線全線開業により、半年くらいは旅行客の増加が予想されるため、景気はやや良くなる。	
		家具製造業（従業員）	・施工途中で止まっていた大型商業施設も動き出し、少しずつ家具の需要が増えている。低価格での受注状況は変わらないが、物件量が増えているため、先行きとしては多少楽観的な状況となった。	
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・1、2月は気候の変動もあり受注面も苦労したが、3、4月は気候的にもいくらか良くなる。また、陶器市等のイベントにもいくらか期待している。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・設備製作の見積依頼が増えている。取引先からもこれから仕事が増えそうだという話を聞く。	
		精密機械器具製造業（従業員）	・今月は生産増のため装置導入があり、3月も大幅な装置導入の計画がある。	
		輸送業（総務）	・九州新幹線が全線開業し、物の動きが良くなる。	
		金融業（営業担当）	・百貨店の開業や九州新幹線の全線開業に伴い、駅周辺の小売業の売上が増加すると期待できる。	
		金融業（営業）	・輸出が好調であり、足元の受注の落ち込みは考えられない。製造業に引っ張られ、サービス業も悪くない状況が続く。ただ、原油価格の高騰には注意が必要である。	
		金融業（調査担当）	・取引先から新駅ビルの開発や駅周辺地区を中心に大型マンションの販売が好調であると聞いている。分譲マンションの動向や新駅ビルによる大型商業施設等の需要拡大は、九州経済が上向く要因になる。	
		その他サービス業【物品リース】（役員）	・国内及び中東における政治の混迷、政情不安等不安材料はあるが、アジア市場の復調を背景とした設備投資増強のための大型投資など、小口を含めた設備の新設、更新の意欲が始めている。	
		変わらない	農林水産業（営業）	・スーパー業界において今後値上げの状況が続くなかで、消費者の収入が増えないこともあり、現状維持となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		鉄鋼業（経営者）	・建築を中心に建設需要に若干の回復がみられ、販売量も少し増加している。しかし、需要の絶対量が少なく、先行きは極めて不透明である。この先も原材料価格は強含みであり、公共事業の縮小に象徴される地方の建設需要減から、原料高、製品安の構図が続く。鉄鋼業を含め建設業にかかわる業界は、極めて厳しい状況が続く。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連の今後の動向は順調に推移するが、不透明な部分も一部あり、はっきりと明言できない。	
		輸送業（従業員）	・小麦粉やカカオ等コーヒーの原料が値上がりし、これからますます消費者の財布のひもが固くなる。荷動きも連動して悪くなる。	
		輸送業（総務担当）	・荷動きの良い貨物があまり見当たらない。しばらくはこのまま横ばいである。全体の荷動きは非常に悪い。	
		広告代理店（従業員）	・新聞折込の受注枚数は前年比98%と前年を下回った。この3か月は変化がみられない。2月に入り、受注枚数が下向きで3月も目立った動きもない。まだまだ消費活動が鈍く、企業は販売促進の経費に予算がつかないようである。	
		経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先に受注見通しを聞くと、年度末需要は従来どおりであり、4月以降も今のところ大きな変化は考えにくいという話が多い。	
	やや悪くなる		繊維工業（営業担当）	・原油価格が上がり始めると、すべての資材や流通に影響が出始める。そういうことに耐えられない中小企業が倒産していくことが懸念される。
			化学工業（総務担当）	・中東諸国で政治情勢の変化が起きており、原油価格高騰の動きがみられ、国内景気に悪影響が予想される。
			金属製品製造業（企画担当）	・国内においては政治の混迷、海外においては中近東諸国の内乱等があり、それに伴う原油価格の高騰等先行きは不安材料だらけである。全く先が読めない状況である。
			一般機械器具製造業（経営者）	・製造業の好決算企業のほとんどは、海外頼りで内需は非常に厳しい。車関係の仕事はますます厳しさを増す。
			輸送用機械器具製造業（経営者）	・客先からのコストダウンの要請があり、厳しい状況である。
			輸送用機械器具製造業（営業担当）	・発注内示数が減少している。
			建設業（従業員）	・見積の案件が増加しているが、なかなか受注まで結びつかないのが現状である。業界自体も競合多数となっており、採算度外視での競争で収益の確保が難しい。
			金融業（営業職渉外係）	・中近東の政情不安や国内の政局等諸問題が山積であり、今後、物価や為替、株価に影響が出始める。そのため、景気が足踏み若しくは後退することが予想される。
			不動産業（従業員）	・近郊の大型施設開業のマイナス影響が懸念される。
経営コンサルタント			・安定した政治状況ではなく、事業に集中できない。	
悪くなる		建設業（社員）	・民間土木工事に期待ができない今、官公庁の繰越工事を早期に発注してもらえよう陳情を繰り返して行いたい。来年度の国の予算が決まらない現在は全く期待ができない。	
		通信業（職員）	・今年度は情報通信関連の補助事業が多数発注され、例年に比べ受注量が大幅に増えたが、来年度はその反動で大幅に減少することが予想される。	
		経営コンサルタント	・経営者にやる気が出ていない。生き残り競争が激化している様子が見受けられる。	
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・市町村の建設関係や調査計画について、予算化するところが少なくなっており、発注量が減少する傾向が続くため、景気は更に悪くなる。国の交付金等をあてにしている市町村は、早く予算措置されないと業務の発注も遅れ、結果として民間の受注が遅れる恐れがある。	
雇用関連	良くなる やや良くなる	—	—	
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・雇用環境の好転により、現状に満足できず、可能性を求めて転職する人が多くなっている。	
		職業安定所（所長）	・新卒及び一般求人増加の傾向がみられる。	
		職業安定所（職員）	・多くの産業で求人の伸びが確実となっていること、九州新幹線の全線開業を控えていること等を背景に、求人意欲の高まりがしばらくは続く。ただし、原油価格が上昇傾向にある等、一部不安定要素があり楽観はできない。	
		職業安定所（職員）	・企業間で業況に差はあるものの、企業への訪問状況等をみると業況の改善がみられる企業が増えている。また、新規求人数も6か月連続で前年同月比プラスとなっており、今後も改善傾向で推移する。	
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・各企業は前年に比べて採用に前向きになっている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・九州新幹線の全線開業による特需が予想より少ない。また雇用数の規模が大きいにだけ継続、維持できるのか想定できない。
		人材派遣会社（社員）	・景気の本格回復はまだ先になることから、人員計画を後ろ倒しにする傾向が強い。
		人材派遣会社（社員）	・新年度へ向けて、特に大きな動きもなく、逆に縮小傾向になる企業がある。企業は見通しがなかなか立たない様子である。契約が終了になり、次の補充はなく、業務の見直しや他部署からの人員異動で調整をする傾向がある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大型商業ビルの開店により、周辺の小企業へのマイナス影響が懸念される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・九州新幹線の全線開業効果がしばらく続く。一方で子ども手当や高速道路料金等の生活関連の政策に不安が多い。
		職業安定所（職員）	・企業の求人、採用の動きは上向いているが、産業全体での回復基調とは言えない。当管内では大型商業施設の撤退や企業整理が行われたため、先行きは不透明な状況にある。
		学校〔大学〕（就職担当者）	・来年3月卒業予定者に対する求人票の受理件数は今後増加していくことが見込まれるが、採用枠の拡大が期待できるような情報は人事担当者から得られていない。厳選採用と必要最小限の採用規模という傾向は変わらない。
やや悪くなる		民間職業紹介機関（職員）	・年度末に近づくことで求人数は一時的に増加傾向にあるが、例年4月の求人数が大幅に減少する傾向にある。
		民間職業紹介機関（社員）	・長期の派遣依頼は増加しておらず、新規の派遣利用もそれほど増加していない。
悪くなる		—	—

### 11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	コンビニ（経営者）	・増税によるたばこ離れの客が戻ってきている。
		通信会社（店長）	・4月発売以降の端末からはSIMロック解除が実施されるため、メーカーが3月下旬に新商品を投入してくる。話題の商品も発売されるため、市場が活気付き夏の本格的な新商品投入まで続きそうな気配がある。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・4月中旬には多くの新規ブランドを取り入れた増床モデルを実施して売上高の底上げを計画している。既存売場の推移からすると、ベースとなる景気そのものは緩やかな回復を継続するものと予測され、短期間での改善は見込めない。
		コンビニ（エリア担当）	・3月以降、観光客の動向がカギになる。県内経済の急激な上昇カーブは期待できず、また、子ども手当等も動向が不確かなため、現在とほぼ変わらない状況を予想する。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・これから新学期に向けて売上を期待したいが、ここ3か月の売上と来客数の傾向をみているときほど期待できない。
		観光型ホテル（マーケティング担当）	・現時点での予約受注状況から推測される稼働率は、ほぼ前年並みの状況を見込んでおり、なかなか稼働率を伸ばすことが難しい状況である。
		住宅販売会社（総務・企画分野）	・競合他社との市場競争が激しくなっており、客の判断がより慎重になっていると捉える。来場客数は増えているが、将来の景気が良くなるとは判断しにくい。
	やや悪くなる	スーパー（販売企画担当）	・競合店の新規出店により、競争が激化する。
		コンビニ（エリア担当）	・利益率の低いたばこ売上の前年比に対して、それ以外の売上の前年比が追いつかず、利益率の低下は続いている。来客数とたばこ以外の売上の回復が必要だが、顧客の新規開拓も店舗数からみても厳しい。今は、3か月後にたばこ以外の売上の前年比を99%にするべく対策を打っているところである。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・売上の減少で価格競争のなか、利益確保が厳しい。更なる経費節減、人員削減・給与の改善を検討していく予定である。
		旅行代理店（代表取締役）	・同業他社、他業種も景気は悪く、先行きが見えない。
		観光名所（職員）	・日本経済は、円高に加え、中東の混乱による原油高により、更に厳しくなるものと予測する。また、沖縄観光にとっては九州新幹線の全線開通により九州観光との競合が生じ、入域観光客に頼る沖縄観光は厳しい状況となる。
悪くなる		家電量販店（総務担当）	・エコポイント制度終了の影響は確実に出る。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他飲食〔居酒屋〕 (経営者)	・燃料費、輸入食材の値上がり、就業労働者の減少、賃金の上昇、低価格志向は続くと思込まれるので、外食以外に、中食、内食に食い込む戦略変更も考えている。
企業 動向 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	通信業(営業担当)	・受注案件が増えており、契約締結に至っている。今後も契約締結を目指したビジネスチャンスは増えると予想する。
	変わらない	輸送業(代表者)	・宮古地区は、生コンクリートとアスファルトの両方が順調で、全体的に活気がある。
		広告代理店(営業担当)	・相変わらず民間企業における販促投資の減少傾向に歯止めが掛からない状況が続いていることから、公共事業への依存度は低くならないのではないかと感じている。
		コピーサービス業(営業担当)	・年度末にかけて受注量は増えるが、新年度からはほぼ横ばいである。
	やや悪くなる	建設業(経営者) 輸送業(営業担当)	・引き合い件数及びモデルハウスへの来場客の動きが鈍い。 ・輸送貨物の増減にかかわらず、現在の原油価格が異常に高騰している。離島県である沖縄はいずれ海上輸送や航空輸送、二次輸送の燃料費アップによる収支圧迫が懸念される。
悪くなる	—	—	
雇用 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	求人情報誌製作会社 (営業担当)	・これから採用に向けて動きが活発になり、求人を使う予算も多くなると見込まれる。
		学校〔専門学校〕(就職担当)	・国や県の緊急雇用対策を反映し求人数が上向きになってきている。業種や職種にもよるが今後も安定的な求人が見込める。
	変わらない	人材派遣会社(経営者)	・数字の大幅増加はあまり期待できないものの、従来以外の分野・業種から新規依頼も来ている。今は変化が無いが、先はまだはっきりしない。
		人材派遣会社(総務担当)	・長期の受注案件は、契約満了によるスタッフ交代が主で、増えるという兆しはまだみえない。現在は、短期受注が主で、4月以降の様子見が続いているようである。
		求人情報誌製作会社 (総務担当)	・求人件数の前年同月比が前年4月より微増傾向に転じ、徐々にではあるがリーマンショック以前の8割程度にまで回復してきている。今後については良くなると回答するには好材料が見当たらず、維持することで精一杯である。
やや悪くなる	職業安定所(職員)	・県内企業は中小零細企業が8割以上を占めており、県の雇用対策の支援継続が不可欠である。製造業を中心とした雇用構造の変革や、サービスを中核とした経済構造の構築が必要である。一見するとIT産業におけるテレホンアポインターは雇用吸収力が高いが、使い捨てが増加してしまうと、将来の専門技術者の養成には程遠い。	
悪くなる	—	—	